

第1章 千曲市の概況と緑の現況



千曲市の概要

本市は、善光寺平の南端および、筑摩山地^{ちくま}※)から新潟の丘陵部に続く山地帯に位置し、人口の集積部は千曲川が形成する平坦部にあります。千曲市の名前が示すとおり、市域を縦断する千曲川が市のシンボリックな自然空間となっており、その他にも姨捨の棚田、屋代たんぼ、筑摩山地^{ちくま}※)等自然と関わりの深い魅力に富んだまちとなっています。

市域全体では、農地が約17%、山林が約57%を占めるなど、8割以上が自然的土地利用となっており自然に恵まれています。

また、本市は、歴史的にも街道が交差し、現在においても鉄道や高速道路が複数敷設された交通の要衝となっています。交通の利便性を活かして工業立地も盛んに行われてきました。

明治には温泉が掘削され、戸倉地区や上山田地区などの温泉観光地も発達してきました。

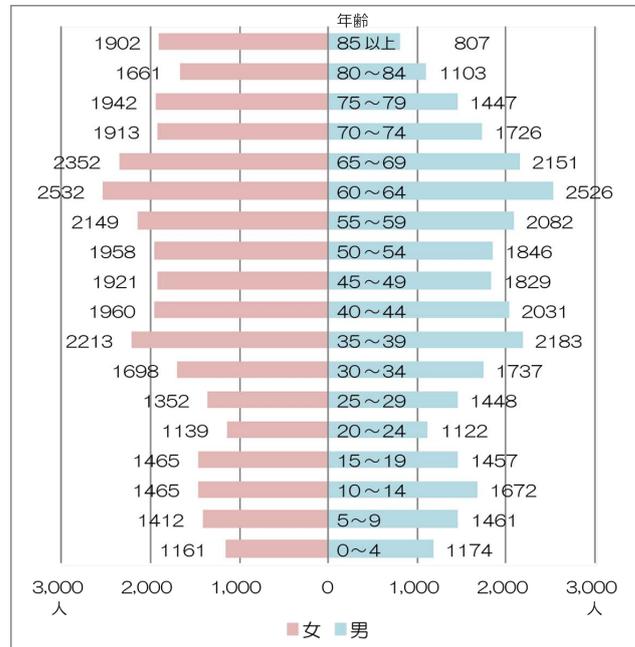
千曲川がゆったりと蛇行する中、東西の細やかな山肌と中小河川に包まれた市域に多くの社寺林が残り、川を渡る人々や物の流れが留まり、歴史文化と緑豊かなまちとなっています。

総面積	119.84k m ² (11,984ha)
最高地	1,333m (大林山山頂)
最低地	353.36m (雨宮字起返下ノ割の水田)
主な山	鏡台山・高雄山・三峯山・冠着山・五里ヶ峯・八頭山・大林山・岩井堂山・一重山・篠山
主な川	千曲川・沢山川・三滝川・佐野川・荏沢川 ^{いざわ} ・更級川・宮川 ^{みやがわ} ・雄沢川 ^{おさわ} ・湯沢川 ^{あらかざわ} ・荒砥沢川 ^{めざわ} ・女沢川・日影沢川

資料：千曲市統計書 2010

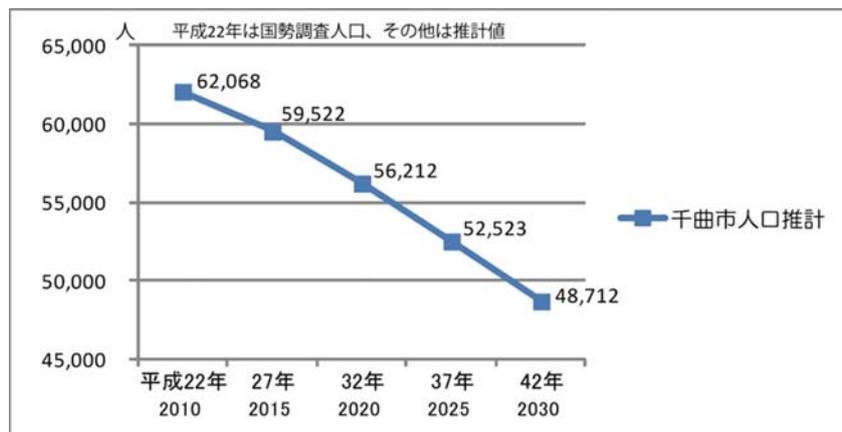
千曲市の人口

本市の人口は、平成22年の国勢調査によると62,068人となっています。人口ピラミッドを見ると高齢者の割合が高くなり、少子化が進んでいる傾向がみられ、今後は逆ピラミッド型に推移していく可能性があります。



資料：平成22年国勢調査
図-2 人口ピラミッド

日本の人口は、本格的な人口減少時代に突入しました。1995年までの増加を最後に減少が始まり、今後も数百万人単位の減少が続くと見込まれています。国立社会保障・人口問題研究所（平成24年1月推計）によると、千曲市についても人口減少が見込まれ、今後、2010年～2030年の20年の間に人口が約22%程度減少すると予測されています。特に生産年齢人口[※]は毎年約500人～650人程度の減少が続く見込みとなっています。



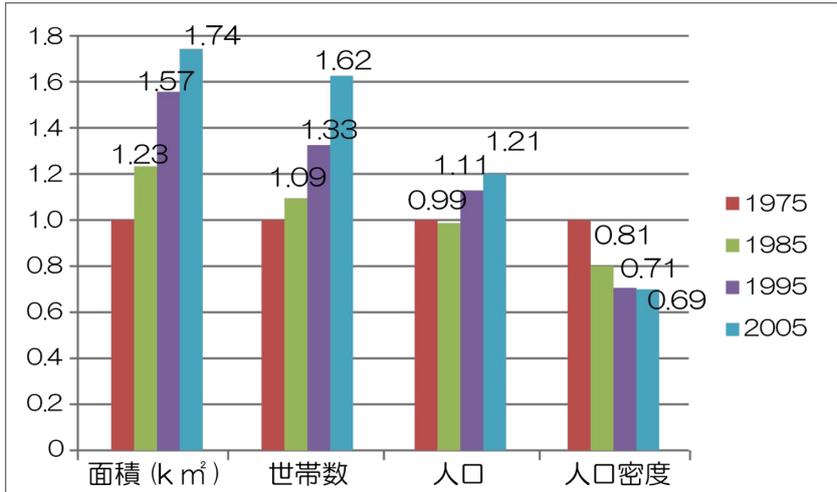
資料：国立社会保障・人口問題研究所
※2010年は国勢調査の値、その他は推計値
図-3 人口推移の予測

社会を支える年齢層が減少するという厳しい状況の中で、今後地域をどのように維持していくのかを考えることは緊急の課題となっています。また、緑の維持管理に関してもこのような状況を踏まえた創意工夫が求められる時代となっています。

市街地

本市におけるDID[※](人口集中地区)は屋代・埴生地区、稻荷山・八幡地区、戸倉・上山田地区となっています。

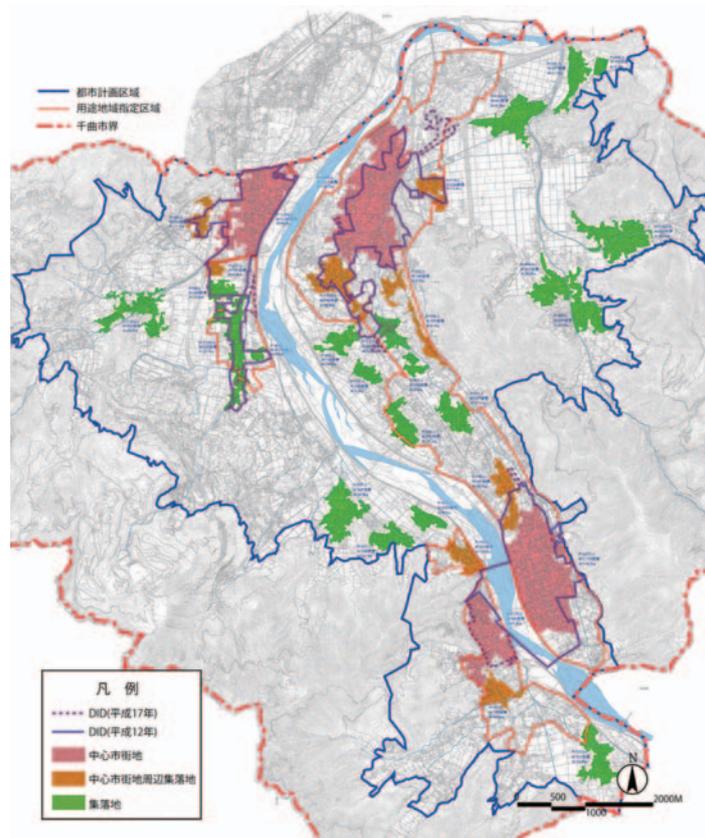
1975(昭和50)年にDIDの面積は3.5k㎡、世帯数が4,654世帯、人口が17,445人、人口密度が4,984人/k㎡でしたが、2005(平成17)年までの30年間の変化をみると、DID地区の面積は約1.7倍、人口は1.2倍と増加しています。



資料：千曲市統計書2010

図-4 DID (人口集中地区) の変化 (1975年を1とする)

中心市街地は、稻荷山周辺、屋代周辺、戸倉周辺、上山田周辺となっており、ほぼ用途地域に指定されている状況です。集落地は都市計画区域[※]内の白地に多い状況となっています。



資料：千曲都市計画基礎調査 平成22年3月

図-5 市街地とDIDの変化

本市は2003年9月1日に、更埴市・埴科郡戸倉町・更級郡上山田町の三市町の合併により誕生しました。長野都市圏※)としての影響力が大きい旧更埴市と上田都市圏※)としての影響が大きい旧戸倉町および旧上山田町が合併し、南北に市街地が分散している特徴があります。

長野都市圏と上田都市圏の両都市圏に深く関係している中で、今後もさらに一体感を感じられるような千曲市らしさを形成していくことが求められています。

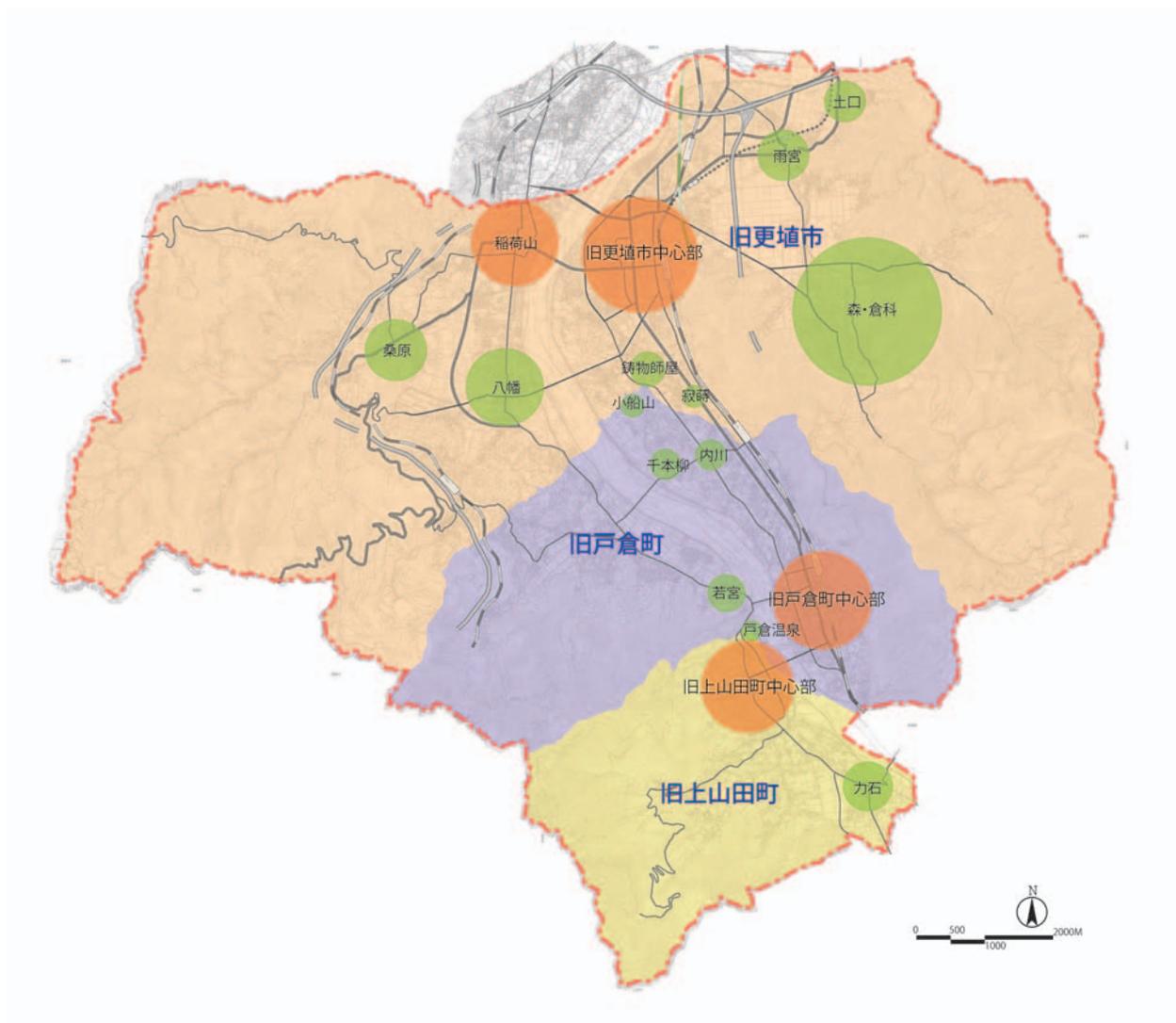


図-6 合併前の旧市町と主な集落

交通

善光寺平の南端に立地する千曲市は、北信地方と中信および東信をつなぐ街道の分岐点となり北国街道※)、善光寺街道※)、谷街道※)が交差する場所として古くから交通の要衝となってきました。

現在は上信越自動車道と長野自動車道の分岐点があり、鉄道はJR篠ノ井線、しなの鉄道、長野電鉄屋代線(※平成24年4月廃止予定)の3路線および北陸新幹線が通過しており、現代においても交通の要衝という特徴を持っています。

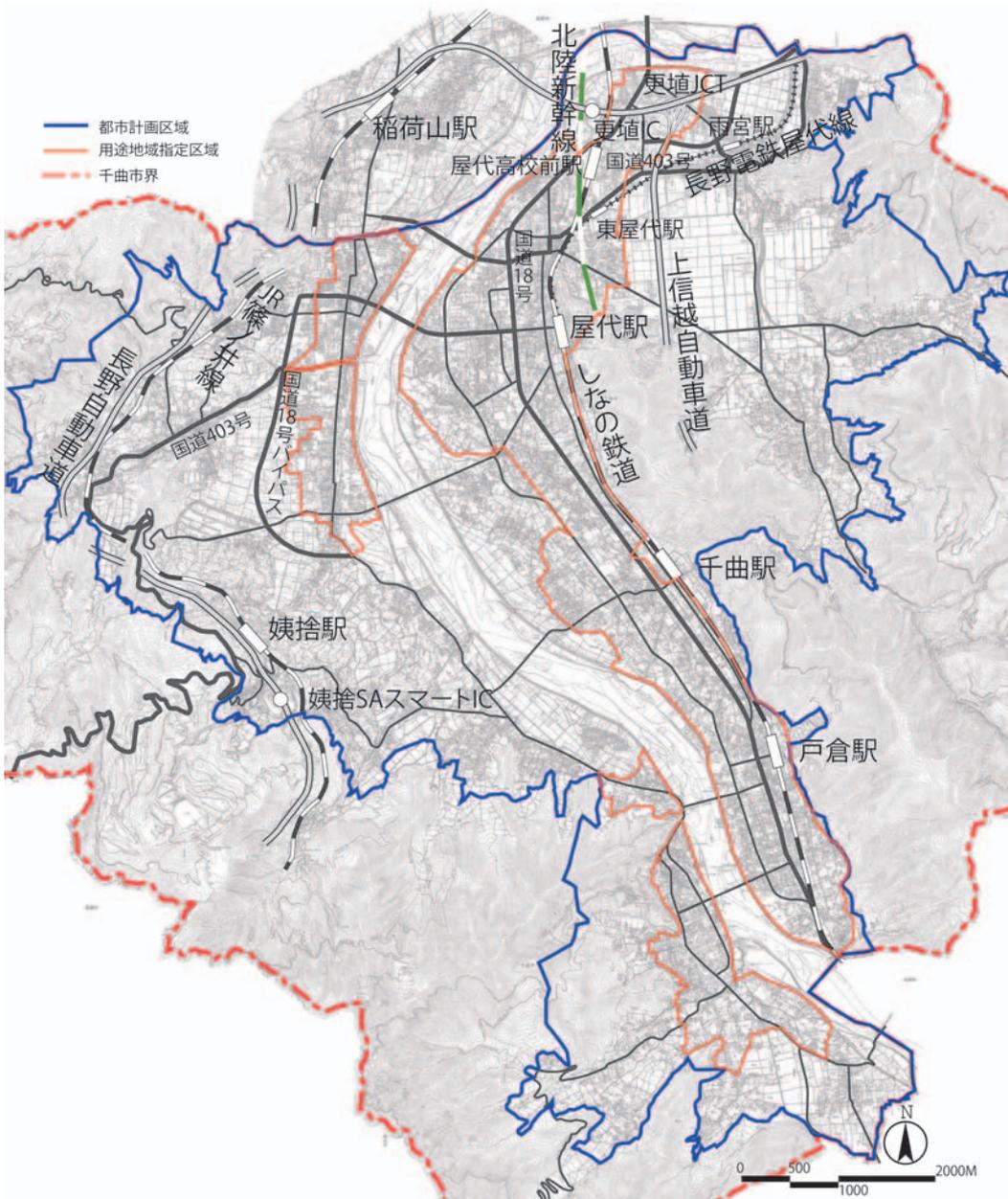
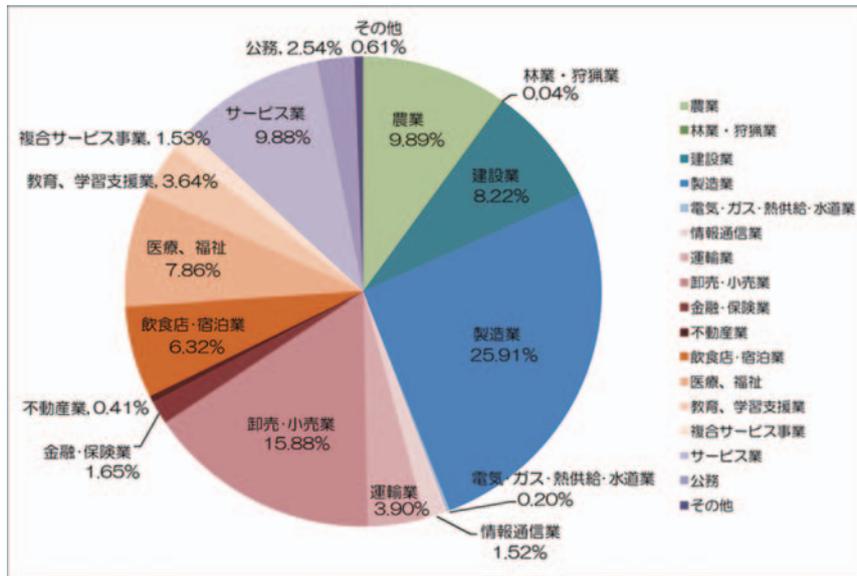


図-7 主要交通動線図



資料：千曲市統計書 2010

図-8 産業従事者構成の特徴

産業の従業者は、1次産業が約10%、2次産業が約34.4%、3次産業が約55.6%となっています。製造業が1/4以上を占め最も多く、次いで卸小売業従事者が多い構成となっています。なお、過去10年をみると製造業従業者数は減少傾向にあります。

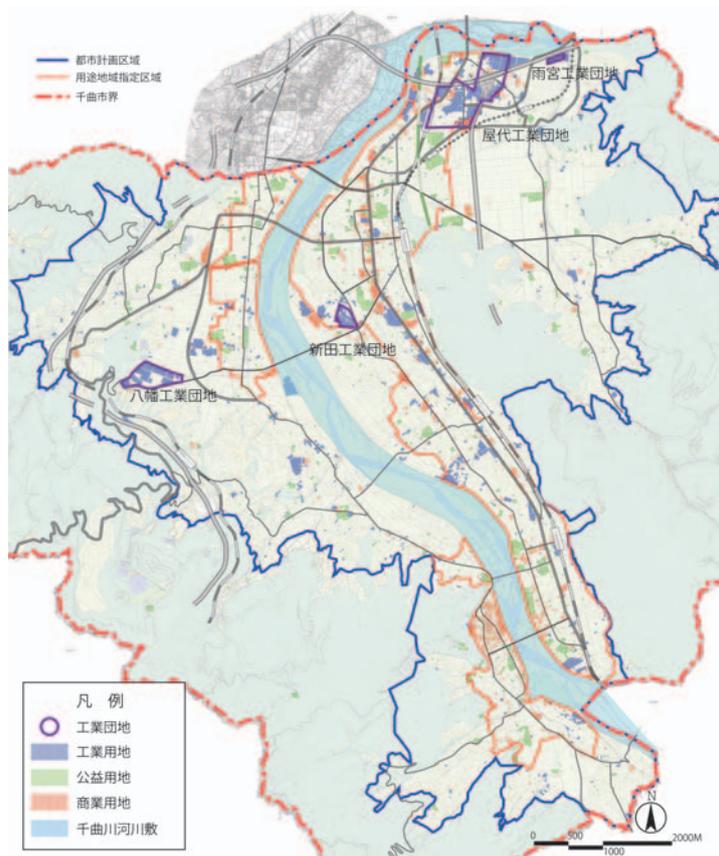


図-9 工業の立地状況図

気象の特徴

本市の年平均気温は約13℃、平成18年～平成22年の5年間の年間降水量の平均は、869.1mmとなっており、日本の多くの地域と比較すると年間降水量は少ない地域です。

風は、季節風の影響により冬には北風、夏は南風が強く吹きます。南北に連なる千曲川の谷筋は、季節の南北の風を集め、風の強い日が多いのが特徴です。

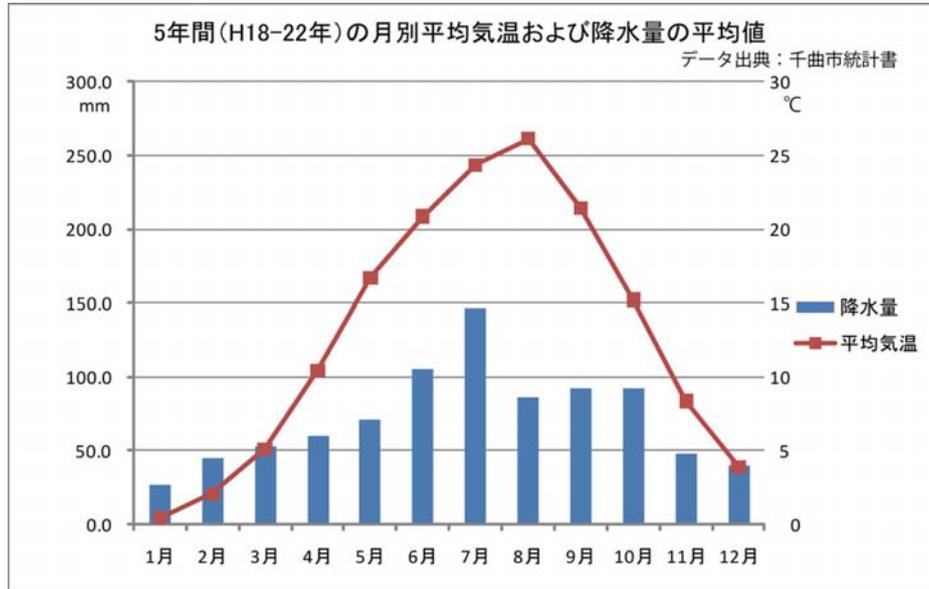
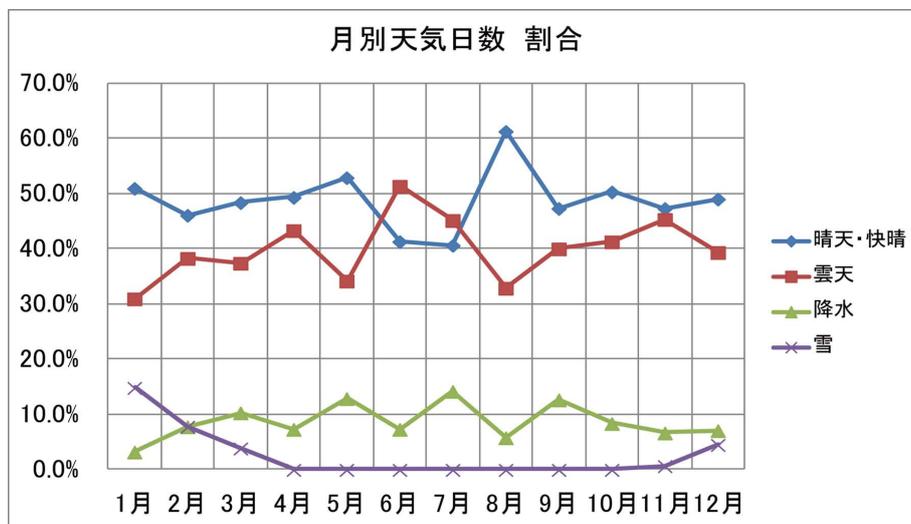


図-10 気温と降水量

資料：千曲市統計書

気候については、8月の晴天率が高く、梅雨時期の晴天率が低い他は、晴天率が5割程度で安定する特徴があります。内陸性の中央高地気候[※]区であるとともに、冬季には季節風の影響を受けて雪や曇りの日も多くなるという日本海側気候の特徴も見られます。本市の複雑で変化の多い気候は、日本海側と太平洋側気候[※]区、西南日本型[※]と東北日本型気候[※]区の境界域にあるためです。



※午前9時の天気 H18～H22の5年平均 資料：千曲市統計書

図-11 気象

地形・地質と水系

本市は北部フォッサマグナ帯[※]に属し、地形や地質が複雑で多様性に富んでいます。市域は、中心部を流れる千曲川に沿った広い谷状の平坦部と、東西に広がる山地からなっています。千曲川に沿う平坦部は、千曲川の堆積作用によって形成されてきました。千曲川東岸は、五里ヶ峯、一重山、鏡台山等の山塊[※]と沖積平野[※]で、西岸は大林山、冠着山、三峯山等 1,000m を超える山並みとそれに広がる高原・扇状地により構成されています。

東西の山地からは多くの河川が千曲川に流入し扇状地を形成しています。平坦部では網目状に用水路が整備され、農地を潤してきました。

また、断層活動によって、千曲川が長い年月をかけて堆積させた土砂による隆起した部分が、筑摩山地[※]の北端をなし、東西の山地はともに凝灰岩層や泥岩層等のもろい地層も多く、地滑りの多い地域でもあります。

しかし、地滑りや土石流によって生み出された地形と地質を利用し、姨捨の棚田のような空間利用[※]も行われてきました。



出典：千曲市の残したい自然 平成19年3月

図-12 地形図

水系

最大のシンボルの一つである千曲川を基軸とした本市の水系は、東西に縦断する山地より数多くの支流が市街地に向かって流れ込んでいます。千曲川に沿う低地においては、水田の為の用水路も網の目のように整備されてきました。また、筑摩山地側の山間部には数多くのため池があり、水田を潤してきました。

千曲川をはじめとした水辺の空間は、豊かな風景を感じさせてくれるだけでなく、生き物の貴重な生息環境となっています。

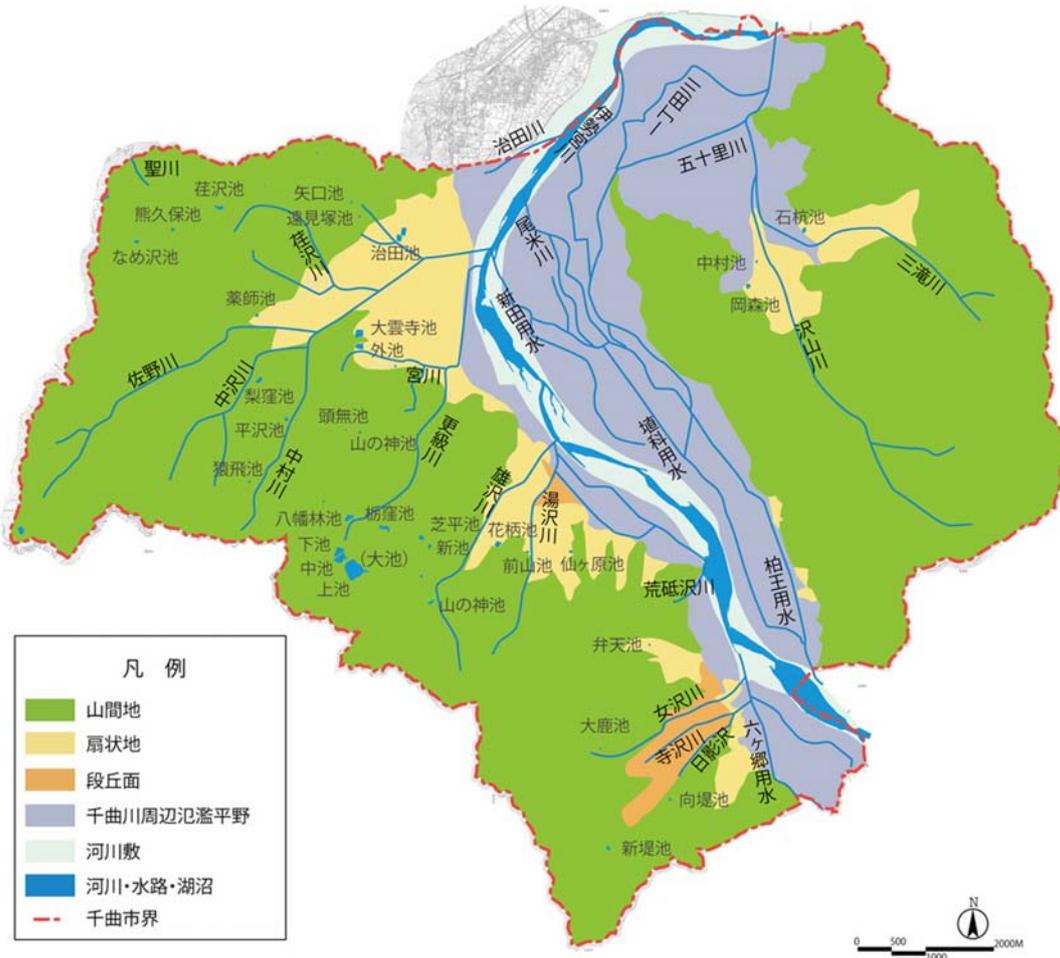


図-13 水系図



山地を背景に雄大に流れる千曲川



佐野川

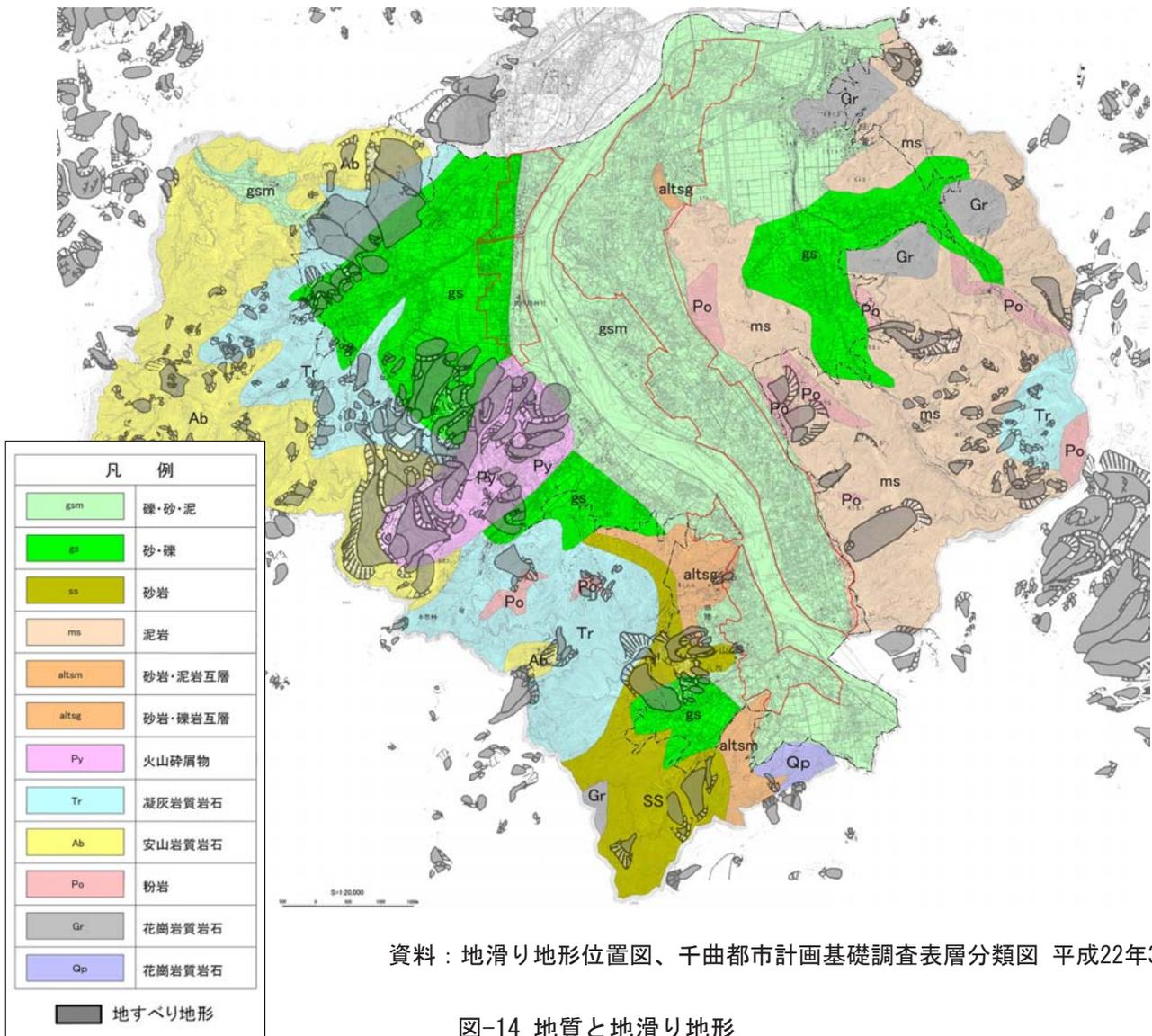
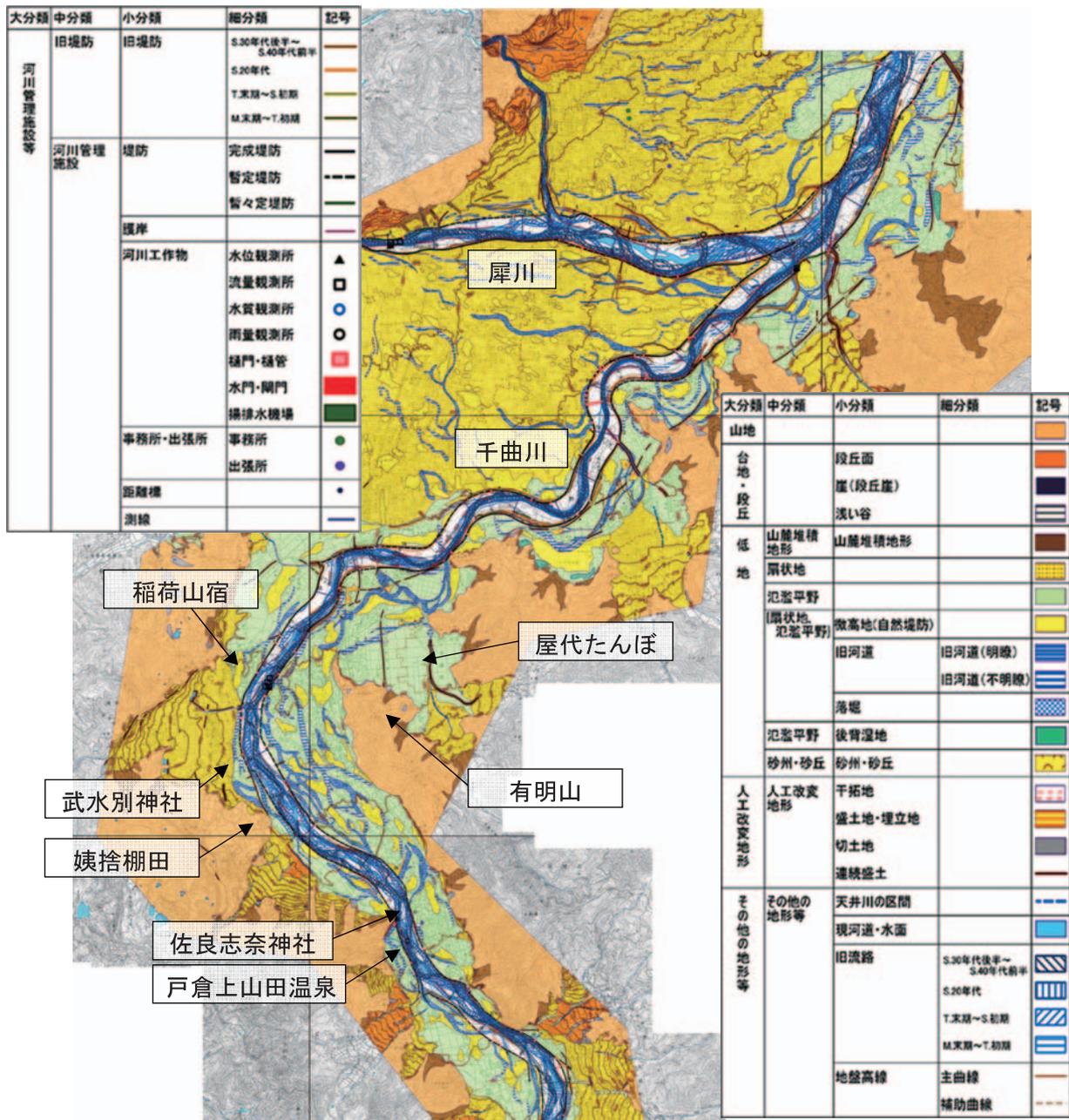


図-14 地質と地滑り地形

本市の地質は、平坦部においては千曲川等による砂、礫等の河川堆積物が積層しています。また、山間部の広い範囲に砂礫層、砂岩、泥岩、火山砕屑物、粉岩等のもろい地層の分布が見られることが特徴となっています。このようなもろい地層の存在が、多くの地滑り地形を形成させてきました。現在も、地震や大雨等によって地滑りが起こりやすいことが特徴であるとも言えます。

河川のダイナミズム^{※)}による地形



出典：国土地理院 治水地形分類図

図-15 治水地形分類図

上の図を見ると、千曲川は、犀川の扇状地によって大きく東の山地側へ流路を押しやられて蛇行していることが分かります。

人口の集中する平坦部は、ほとんどが千曲川の氾濫平野に立地し、水害を意識しなければならない場所であることが分かります。

しかし、昔からの土地利用が行われていた、例えば、稲荷山宿は、自然堤防である微高地上に形成され、武水別神社は佐野川等によって形成された扇状地の扇端部に位置し、水害を受けにくい場所に立地していることが分かります。

土地利用

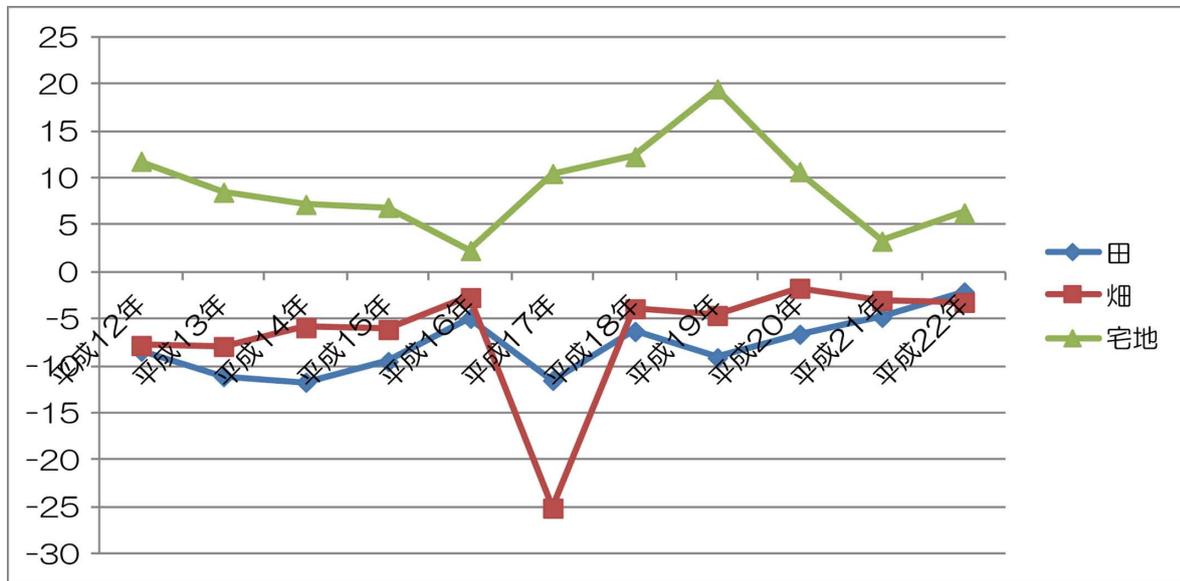
土地利用の概要

市街地区分 単位 (ha)	自然的土地利用							都市的土 地利用計	千曲市 合計
	農 地			山 林	水 面	その他の 自然地	小 計		
	田	畑	小計						
用途地域 指定区域	133.9	220.4	354.3	19.5	12.0	12.0	397.8	1,057.2	1,455.0
	9.2%	15.1%	24.4%	1.3%	0.8%	0.8%	27.3%	72.7%	100%
用途地域指 定区域外	647.7	901.5	1,549.2	1,198.5	184.0	377.2	3,308.9	1,136.1	4,445.0
	14.6%	20.3%	34.9%	27.0%	4.1%	8.5%	74.4%	25.6%	100%
都市計画 区域	781.6	1,121.9	1,903.5	1,218.0	196.0	389.2	3,706.7	2,193.3	5,900.0
	13.2%	19.0%	32.3%	20.6%	3.3%	6.6%	62.8%	37.2%	100%
都市計画 区域外	51.7	94.1	145.8	5,655.5	22.4	25.0	5,848.7	235.3	6,084.0
	0.85%	1.55%	2.40%	92.96%	0.37%	0.41%	96.13%	3.87%	100%
合 計	833.3	1,216.0	2,049.3	6,873.5	218.4	414.2	9,555.4	2,428.6	11,984.0
	7.0%	10.1%	17.1%	57.4%	1.8%	3.5%	79.7%	20.3%	100%

出典：千曲都市計画基礎調査平成22年3月

都市計画区域において自然的土地利用は6割を超え、市域全体では8割を占めています。
都市計画区域外の自然的土地利用の内容は、山林が9割以上となっています。

地目別土地面積（田・畑・宅地）の変化（ha/年）



資料：千曲市統計書 2010

図-16 土地利用の増減

平成11年～平成22年までの間に宅地は総計99.3ha増加したのに対し、水田が総計86haの減少、畑が総計71.9haの減少を示しており、宅地化が進み農地が減っています。

都市計画区域内の農地の転用状況

都市計画区域内で平成17年以降の5年間をみても、毎年平均5ha以上の農地が転用されている状況です。住宅地として転用されている面積が大きくなっています。

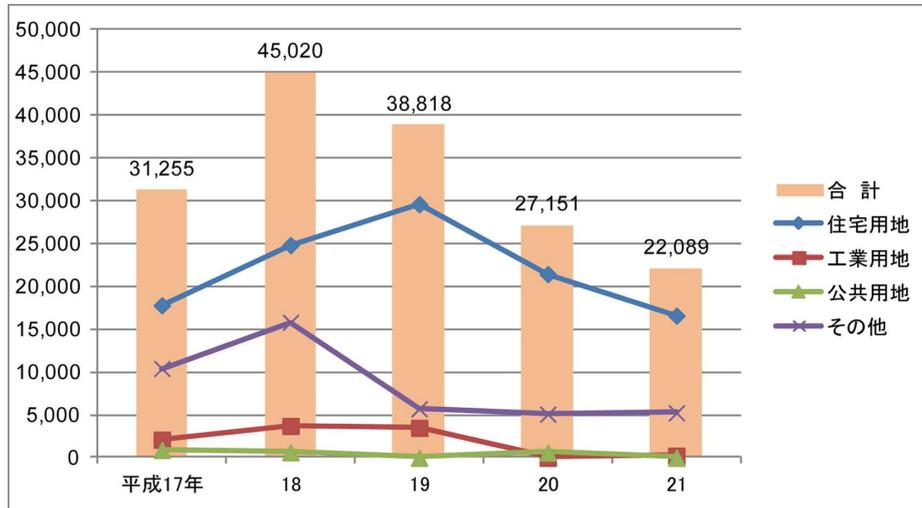


図-17 用途地域指定区域内農地転用面積（単位：㎡）

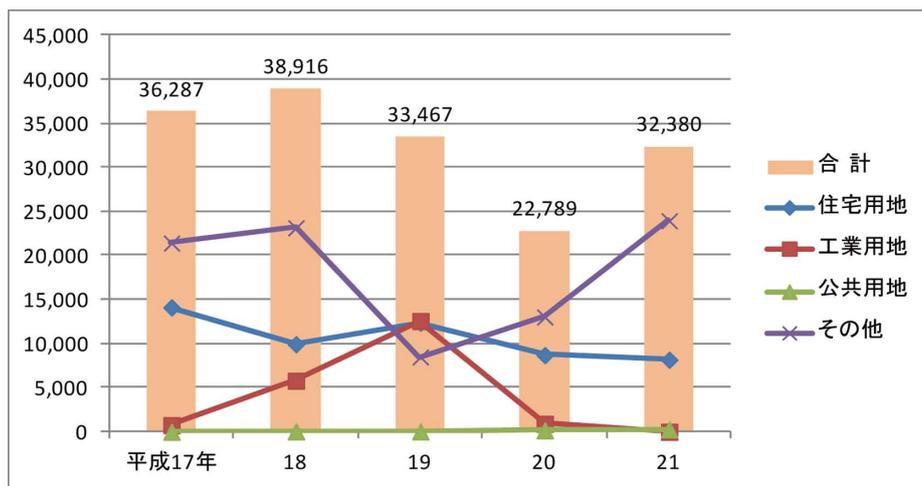


図-18 用途地域指定区域以外農地転用面積（単位：㎡）

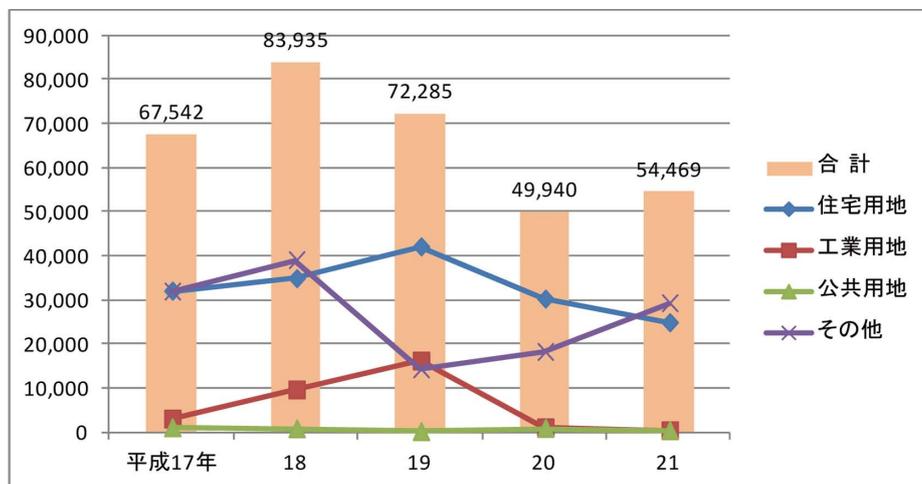
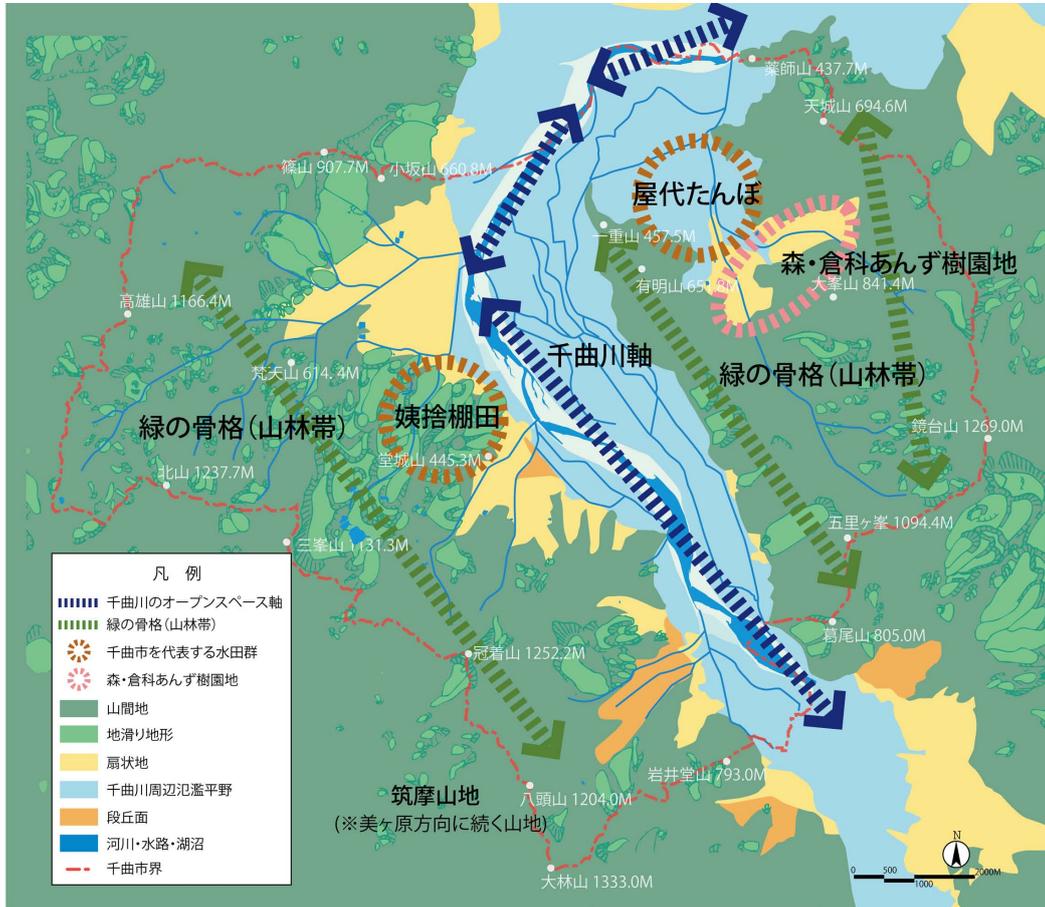


図-19 都市計画区域内農地転用面積（単位：㎡）

資料：千曲都市計画基礎調査 平成22年3月

千曲市の緑の状況

1. 緑の特徴



資料：国土地理院 治水地形分類図、地滑り地形位置図

図-20 地形と緑の骨格

本市の骨格を成す緑として、市域を南北に貫き広大なオープンスペースとなっている千曲川、市の両端に連なる筑摩山地^{ちくま}※)などの広大な里山、姨捨の棚田、屋代たんぼ、森・倉科あんず樹園地などに代表される山裾や平地に広がる田園空間・農地は、千曲市の特徴的な景観の構成要素です。

千曲川の河川敷には、屏風^{びょうぶ}のように広がる里山の緑を背景に、広大なオープンスペースを活かした、千曲橋緑地などの開放感ある大規模な緑地・公園が多くあります。山裾や平地部には、武水別神社などの社寺林が点在し、歴史を感じる豊かな樹林は、市街地の貴重な緑となっています。

市内には戸倉宿キティパーク、更埴中央公園、稻荷山公園、治田公園や、歴史を学ぶ科野の里歴史公園などの公園があります。これらは、桜や花々など、季節の変化を楽しむことができ、地域の人々に親しまれる豊かな緑となっています。

また、姨捨の棚田や屋代たんぼ、あんず樹園地などの農地は、市の象徴的な風景となっており、特徴ある緑の空間として位置付けられます。

① 千曲川

千曲川は、市の名前の由来となっており、文化、風景にとって最も象徴的な要素となっています。本市を縦断する、幅の広い河川敷を有する雄大な千曲川は、市の骨格を成すオープンスペースといえます。

千曲川は昔からの川遊びの場であり、ヨシなどが繁る緑地でもあり、現在においても大規模な公園、自転車道などが配置され、優れた景観を活かしたオープンスペースの基軸として利用されています。



千曲川



姨捨の棚田から千曲川を望む



千曲橋緑地



千曲川堤防のサイクリング道路
(一般県道 上田千曲長野自転車道線)



千曲川河川敷の農地

② 姨捨の棚田

姨捨の棚田は、地形的には水田として不便であるにもかかわらず、古くから絶え間ない人の努力によって現代まで継承されてきました。

米という農作物の恵みをもたらしてくれるだけでなく、^{ふうこうめいび}風光明媚なその風景も昔から日本全国の人々から愛でられています。

本市で育った子どもたちにとって、姨捨の棚田の風景は心のふるさととして地域の誇りとなっています。

姨捨の棚田はその美しさのみならず、人による^{あぜ}畦の草刈りなどの管理が行われることで、効率性重視の圃場整備の畦に比べ植物の多様性が保たれているという研究結果があります。

この手入れとの関係性は、緑の在り方を考える上で非常に重要となります。



姨捨の棚田

③ 屋代たんぼ

条里制^{じょうりせい}※の時代から続いている、のびやかな景色をみせる屋代たんぼは、姨捨の棚田と並んで千曲市のシンボルとなっています。このような、本市を象徴する農地は、人々の心の糧となるかけがえのないオープンスペースです。



屋代たんぼ

④ 森・倉科のあんず樹園地

本市のあんずは全国的にも有名となっており、森・倉科地区に広がるあんずの樹園地は特徴ある緑としても重要となっています。樹園地にはあんずの里スケッチパークなど、あんずの花や季節の移ろいを楽しむスペースも整備されています。



森のあんず

出典：千曲市の残したい自然 平成19年3月

⑤ 里山

本市の両端に縦断する筑摩^{ちくま}山地等に広がる山林は、緑の中でも最も広く、市街地からの景観においては緑の背景となり、緑の骨格を成しています。

また、山林のほとんどは、人との関わりによって成り立つ二次林[※]や植林地となっており、憩い、防災、材木や山菜・きのこ等の山林資源、景観、そして生態系にとって重要な役割を果たしています。



千曲川からの里山の風景

千曲市の緑の状況

2. 市街地の緑

① 住宅地の緑

住宅地では、近隣の住民や道行く人が心地よく感じられるような植栽を施すことで、住環境の向上が図られています。



緑がつながる農業集落



緑がつながる住宅地



公園の緑と住宅

② 商業地の緑

駅前の商店街等には、街路樹やプランターなどに植栽が施された箇所があります。郊外型の店舗は駐車場や建物も大規模となるため、植栽の工夫が必要となっています。



街路樹のある商店街



大規模な郊外型店舗

③ 公共施設の緑

公共施設においては、市民の憩いとなる緑として、地域の緑のシンボルや見本となるような植栽があります。



更埴図書館の豊かな植栽



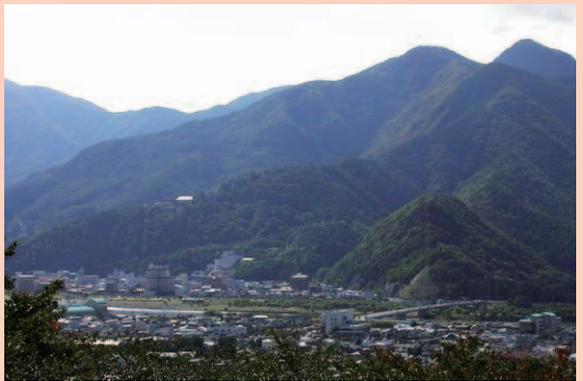
屋代駅前広場の植栽

④ 温泉観光地の緑

温泉観光地では、緑も滞在客に対するもてなしのひとつとなります。観光地としてのイメージアップとなる緑があります。



温泉地旅館の植栽



戸倉上山田温泉と背景の山並み

⑤ 工業地の緑

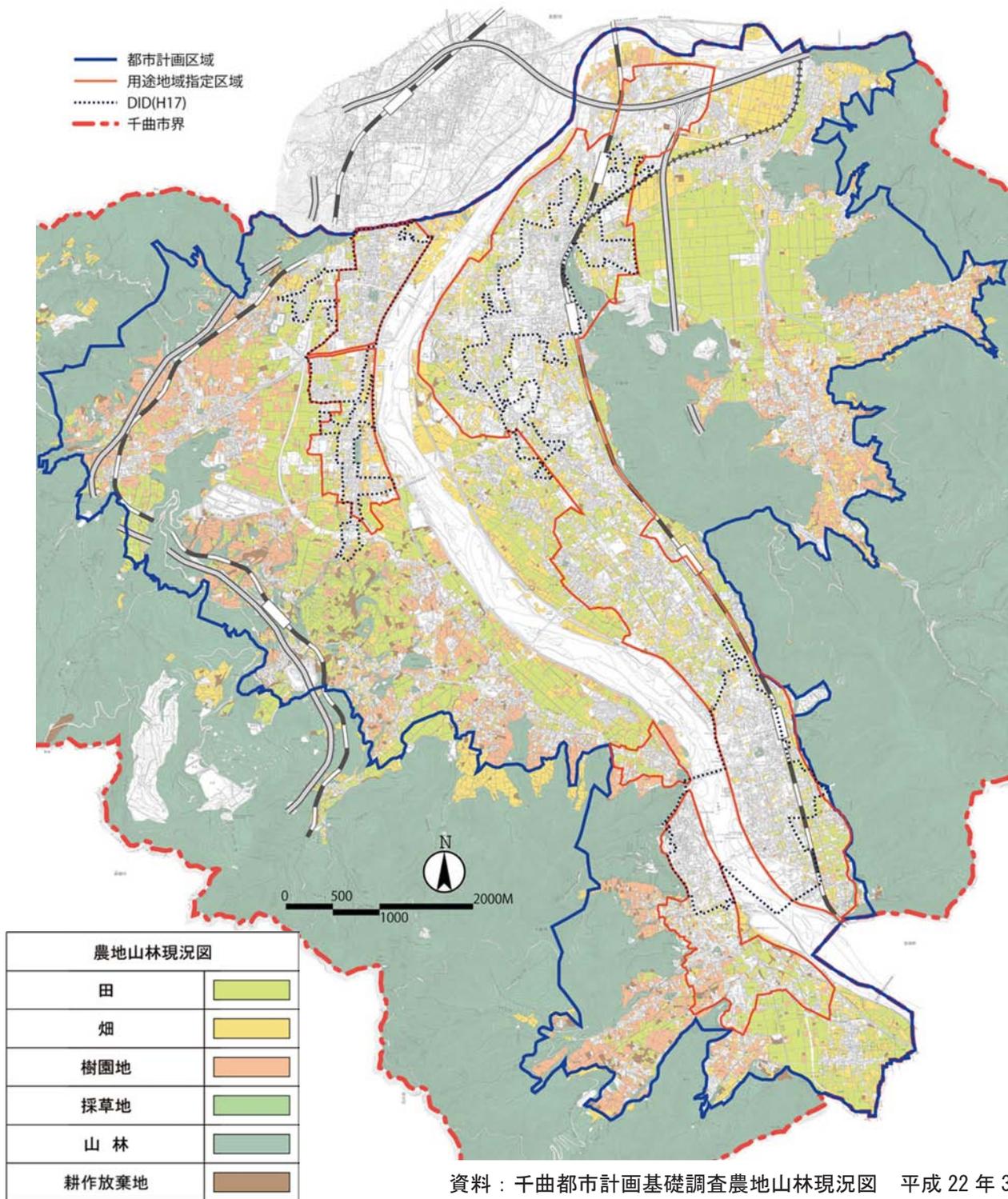
敷地規模が大きな工業地には、植栽が義務付けられています。年数を重ねることで充実した緑となります。



植栽の施された工場の敷地

千曲市の緑の状況

3. 農地・山林の現況



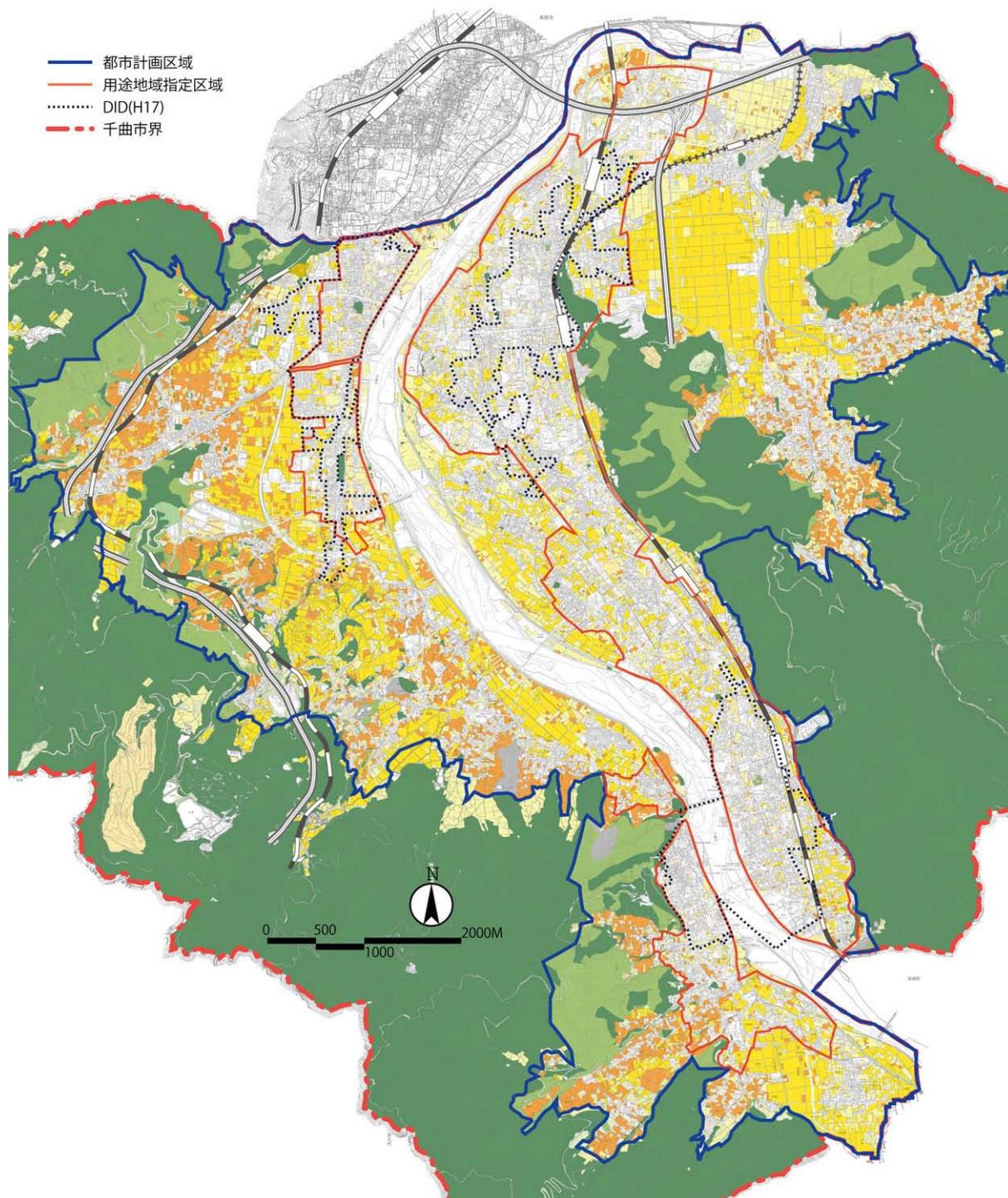
資料：千曲都市計画基礎調査農地山林現況図 平成 22 年 3 月
図-21 農地・山林の状況

山林を除くと、田・畑・樹園地が千曲市全域にわたって広がっていますが、耕作放棄地が多くみられるようになってきています（※75haの耕作放棄地、2005年農林業センサス）。

本市では農地の宅地化による減少に加えて、耕作放棄という形でも農地の減少が進んでいます。

人口減少や農業従事者が減少する中、市の特徴をなす田・畑・樹園地の風景の質を高めながらどのように維持していくかが問われています。

4. 植生の現況



資料：千曲都市計画基礎調査植生現況図 平成22年3月
図-22 植生の現況

本市の樹林の大部分は、人々の生活圏に属した人為的作用を受けた代償植生^{※)}です。山林は、二次林^{※)}と植林で構成され、山麓の斜面に果樹園や段々畑、山腹にカラマツやヒノキ、谷筋斜面にスギ植林、他はクリ、コナラ、アカマツ等の二次林となっています。

水田は、主に千曲川氾濫原と山裾に見られます。材木の価格低下や林業従業者の減少、また工業化が進んだ現代社会において、里山と生活の関係が希薄になったことなどにより、管理の行き届かない山林も増えていますが、県の森林税の導入などで間伐も進められています。

公園・緑地

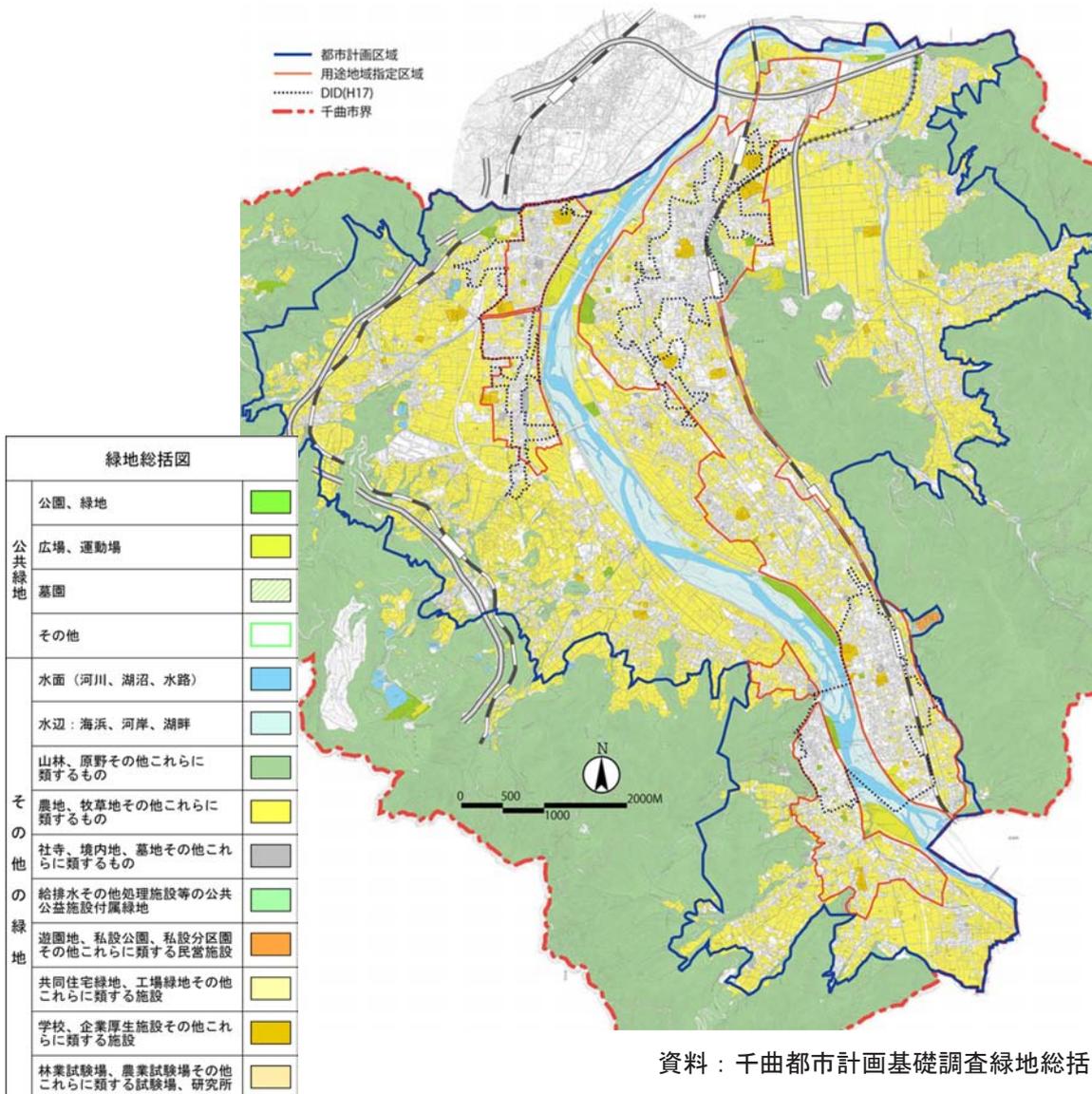
1. 緑地

本市の都市計画区域内の緑地については、千曲都市計画基礎調査（平成22年3月）を基に区域区分ごとに算出し、都市公園等を計上区分して、各区域の現況量を算出しました。

用途地域内の緑地面積合計は、461.8ha、緑地の割合は31.7%となります。用途地域外においては、大半が農地や山林に覆われ、河川等も多く、緑地面積合計3,346.3ha、緑地の割合は75.3%となっています。

千曲市都市計画区域内の緑地比率

	用途地域	用途地域外	都市計画区域内
総面積 (ha)	1,455	4,445	5,900
緑地面積計 (ha)	461.8	3,346.3	3,808.1
緑地の割合	31.7%	75.3%	64.5%



資料：千曲都市計画基礎調査緑地総括図 平成22年3月

図-23 公園・緑地の現況（都市計画区域内）

都市計画区域の緑地内訳表

緑地種類		用途地域内 面積 (ha)	用途地域外 面積 (ha)	箇所 数	都市計画区域 面積計 (ha)	
施設 緑地	都市 公園	街区公園（都市計画決定済）	3.2	0.52	13	3.72
		街区公園（都市計画決定していないもの）	0.6	2.42	16	3.02
		地区公園（都市計画決定済）	5.6	0	1	5.6
		近隣公園（都市計画決定済）	0	3.5	2	3.5
		総合公園	-	-	0	0
		運動公園	-	-	0	0
		広域公園	-	-	0	0
		都市緑地（都市計画決定済）	0	23.68	3	23.68
		都市緑地（都市計画決定していないもの）	0.74	28.3	9	29.04
	都市公園計（箇所数に五十里公園の重複を含まない）	10.14	58.42	43	68.56	
	公共施 設緑地	その他広場・運動場	4.66	8.98	-	13.64
		墓園	0	1	-	1
		その他公共公益施設	1.2	4.4	-	5.6
		学校	41.8	13.5	-	55.3
		公共施設緑地計	47.66	27.88	-	75.54
		※公共施設緑地計 （都市計画決定していない都市公園含む）	49	58.6	-	107.6
	民間施 設緑地	社寺境内地	17.4	29.3	-	46.7
		民営施設緑地	0	3.6	-	3.6
		その他民営緑地（工場等）	0.6	0.7	-	1.3
民間施設緑地計		18	33.6	-	51.6	
施設緑地計		75.8	119.9	-	195.7	
地域 制 緑地	緑地保全地区	0	0	-	0	
	風致地区	0	0	-	0	
	農振農用地区域	0	1046	-	1046	
	河川・水面・水辺	12.2	478.7	-	490.9	
	保安林	0	36.2	-	36.2	
	森林区域（保安林以外）	19.5	1,162.3	-	1,181.8	
その他農地	354.3	503.2	-	857.5		
地域制緑地その他の緑地計		386	3,326.4	-	3,612.4	
総計		461.8	3,346.3	-	3,808.1	

参考：千曲都市計画基礎調査調書 平成22年3月のデータ

2. 都市公園の種類

都市公園には下表のような種類があります。

種類	種別	内容
住区 基幹 公園	街区公園	もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離250mの範囲内で1箇所当たり面積0.25haを標準として配置する。
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区(幹線街路等に囲まれた約1km四方の居住単位)当たり1箇所を誘致距離500mの範囲内で1箇所当たり面積2haを標準として配置する。
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離1kmの範囲内で1箇所当たり面積4haを標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園(カントリーパーク)は、面積4ha以上を標準とする。
都市 基幹 公園	総合公園	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10~50haを標準として配置する。
	運動公園	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積15~75haを標準として配置する。
大規模 公園	広域公園	主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、地方生活圈等広域的なブロック単位ごとに1箇所当たり面積50ha以上を標準として配置する。
	レクリエーション都市	大都市その他の都市圏域から発生する多様かつ選択性に富んだ広域レクリエーション需要を充足することを目的とし、総合的な都市計画に基づき、自然環境の良好な地域を主体に、大規模な公園を核として各種のレクリエーション施設が配置される一団の地域であり、大都市圏その他の都市圏域から容易に到達可能な場所に、全体規模1000haを標準として配置する。
国営公園		主として一の都府県の区域を超えるような広域的な利用に供することを目的として国が設置する大規模な公園にあっては、1箇所当たり面積おおむね300ha以上を標準として配置する。国家的な記念事業等として設置するものにあつては、その設置目的にふさわしい内容を有するように配置する。

出典：国土交通省ホームページ

種類	種別	内容
緩衝緑地等	特殊公園	風致公園、動植物公園、歴史公園、墓園等特殊な公園で、その目的に則し配置する。
	緩衝緑地	大気汚染、騒音、振動、悪臭等の公害防止、緩和若しくはコンビナート地帯等の災害の防止を図ることを目的とする緑地で、公害、災害発生源地域と住居地域、商業地域等とを分離遮断することが必要な位置について公害、災害の状況に応じ配置する。
	都市緑地	主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置する。但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあってはその規模を0.05ha以上とする。(都市計画決定を行わずに借地により整備し都市公園として配置するものを含む)
	緑道	災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地で幅員10~20mを標準として、公園、学校、ショッピングセンター、駅前広場等を相互に結ぶよう配置する。

出典：国土交通省ホームページ



千曲川万葉公園（街区公園）



稲荷山公園（近隣公園）



更埴中央公園（地区公園）



戸倉宿キティパーク（都市緑地）

公園・緑地

3. 都市公園の整備状況

本市の都市公園(公園・緑地)の整備面積は下表のようになっています。都市計画マスタープランでは市民一人当たりの都市公園面積の目標値(平成23年度)が11㎡/人となっていますが、平成22年度国勢調査(平成22年10月1日)人口では、市民一人当たりの都市公園面積は11.04㎡/人であり、目標値に達しています。

平成22年国勢調査人口 62,068人で計算した場合
 平成23年度末都市公園面積 : 685,600㎡
 住区基幹公園面積 市民一人当たり : 2.55㎡/人
 都市緑地面積 市民一人当たり : 8.49㎡/人
 都市公園面積 市民一人当たり : 11.04㎡/人

種類	種別	箇所	面積(㎡)
住区基幹公園	街区公園	28	67,400
	近隣公園	2	35,000
	地区公園	1	56,000
	計	31	158,400
緩衝緑地等	都市緑地	12	527,200
合計		43	685,600



五十里公園(街区公園)



倉科ふれあい公園(街区公園)



さらしなの里古代体験パーク(都市緑地)



五加の庄花緑コミュニティパーク(都市緑地)

公園・緑地

4. 都市公園一覧

本市には43箇所の都市公園があります。

平成24年3月現在

	種別	公園名	所在地	開設面積 (㎡)	都市計画決定 済都市公園
1	街区公園	西船山公園	千曲市杭瀬下二丁目4	6,900	○
2	街区公園	雨宮公園	千曲市大字雨宮 1367-1	3,200	○
3	街区公園	志川公園	千曲市大字八幡 2393-1	2,000	○
4	街区公園	屋代公園	千曲市大字屋代 2225-3	1,800	○
5	街区公園	伊勢宮公園	千曲市大字稻荷山 198-3	2,500	○
6	街区公園	北堀公園	千曲市大字八幡 2147-5	1,800	○
7	街区公園	杭瀬下公園	千曲市杭瀬下三丁目177	1,600	○
8	街区公園	大雲寺公園	千曲市大字八幡 1397	3,000	—
9	街区公園	五十里公園	千曲市杭瀬下六丁目65	3,600	※ ○
10	街区公園	中町ねむのき公園	千曲市大字野高場 973-21	1,600	—
11	街区公園	生萱公園	千曲市大字生萱 335	2,800	—
12	街区公園	倉科ふれあい公園	千曲市大字倉科 1618-1	1,800	—
13	街区公園	岡地公園	千曲市大字森 943-1	1,100	—
14	街区公園	倉科の里広場	千曲市大字倉科 558-2	600	—
15	街区公園	妙音寺公園	千曲市大字倉科 1192	700	—
16	街区公園	大峡ポケットパーク	千曲市大字倉科 1774-4	200	—
17	街区公園	中村池公園	千曲市大字森 789-1	2,100	—
18	街区公園	大峯公園	千曲市大字森 2003-1	1,000	—
19	街区公園	薬師山展望台公園	千曲市大字森 2980-48	2,200	—
20	街区公園	小船山公園	千曲市大字小船山 167-1	3,300	—
21	街区公園	上山田西公園	千曲市上山田温泉一丁目20-1	3,200	—
22	街区公園	千曲川万葉公園	千曲市上山田温泉二丁目4-2 千曲市上山田温泉三丁目37-1先	1,900	—
23	街区公園	上山田中央公園	千曲市上山田温泉二丁目19	4,000	○
24	街区公園	上山田南部公園	千曲市上山田温泉三丁目15-2	3,000	○
25	街区公園	たじま公園	千曲市上山田温泉三丁目45-1	1,000	○
26	街区公園	住吉公園	千曲市上山田温泉四丁目32	5,000	○
27	街区公園	女沢公園	千曲市大字上山田 3822-2	2,000	○
28	街区公園	三本木公園	千曲市大字上山田 583-1	3,500	—
29	近隣公園	沢山川親水公園	千曲市大字雨宮 4048-1	14,000	○

	種別	公園名	所在地	開設面積 (㎡)	都市計画決定 済都市公園
30	近隣公園	稲荷山公園	千曲市大字稲荷山 2323	21,000	○
31	地区公園	更埴中央公園	千曲市大字新田 300	56,000	○
32	都市緑地	千曲橋緑地	千曲市大字野高場 1850	81,000	○
33	都市緑地	平和橋緑地	千曲市大字中 1000	21,000	—
34	都市緑地	水辺の楽校親水公園	千曲市大字八幡 6275-7 先	36,500	—
35	都市緑地	雨宮緑地	千曲市大字雨宮 4655-72	27,400	—
36	都市緑地	戸倉千曲川緑地公園	千曲市大字戸倉温泉 3055-6	27,800	○
37	都市緑地	大西緑地公園	千曲市大字上徳間 380 先	114,500	—
38	都市緑地	さらしなの里古代体験パーク	千曲市大字羽尾 244-1	9,500	—
39	都市緑地	五加の庄花緑コミュニティパーク	千曲市大字千本柳 301-1	5,000	—
40	都市緑地	戸倉宿キティパーク	千曲市大字戸倉 1062-36	73,300	—
41	都市緑地	柏清水公園	千曲市大字戸倉 49-1	800	—
42	都市緑地	花緑ふれあい公園	千曲市大字戸倉 2352	2,400	—
43	都市緑地	上山田中央緑地	千曲市大字上山田 3813-27 先	128,000	○
合 計 43箇所				685,600	

※ 五十里公園は都市計画決定済都市公園箇所に含まれますが、都市計画決定済面積は 2,400 ㎡、決定していない面積は 1,200 ㎡です。

都市計画決定済都市公園	19箇所	365,000 ㎡
都市計画決定していない都市公園	24箇所	320,600 ㎡



大雲寺公園（街区公園）



妙音寺公園（街区公園）



柏清水公園（都市緑地）



上山田中央公園（街区公園）

公園・緑地

5. 都市公園以外の主な公園・緑地等

都市公園以外の公園・緑地等も数多くあります。

名 称	位 置	面 積(m ²)	備 考
千曲市科野の里ふれあい公園	大字屋代 130-1	13,000	
治田公園	大字稲荷山 1638-3	1,320	
小島まちかど公園	大字小島 3181-1	1,100	
千曲市水と緑と潤いのある公園	上山田温泉二丁目9番地1	1,663	
千曲市科野の里歴史公園	大字屋代 29-1	220,000	
あんずの里窪山展望公園	大字森 1914-1	8,049	
倉科の里薬師山公園	大字倉科 1744-4	2,704	
千曲市智識の杜公園	大字上山田 1193-2	3,227	
千曲市城山史跡公園	大字上山田 3509-1	9,461	
千曲市あんずの里スケッチパーク	大字森 1735番地1	9,014	
姨捨公園	大字八幡 4910-39	2,747	
千曲川展望公園	大字八幡 8017-1 地先	約 580	県管理

戸倉体育館周辺スポーツ施設	大字磯部 1406-1	サッカー場、 野球場、テニス場	
一般県道 上田千曲長野自転車道線	千曲川左岸の緑道	千曲市分 約 12.2km	



千曲市科野の里ふれあい公園



治田公園



千曲市科野の里歴史公園



姨捨公園

6. 公園・緑地位置図

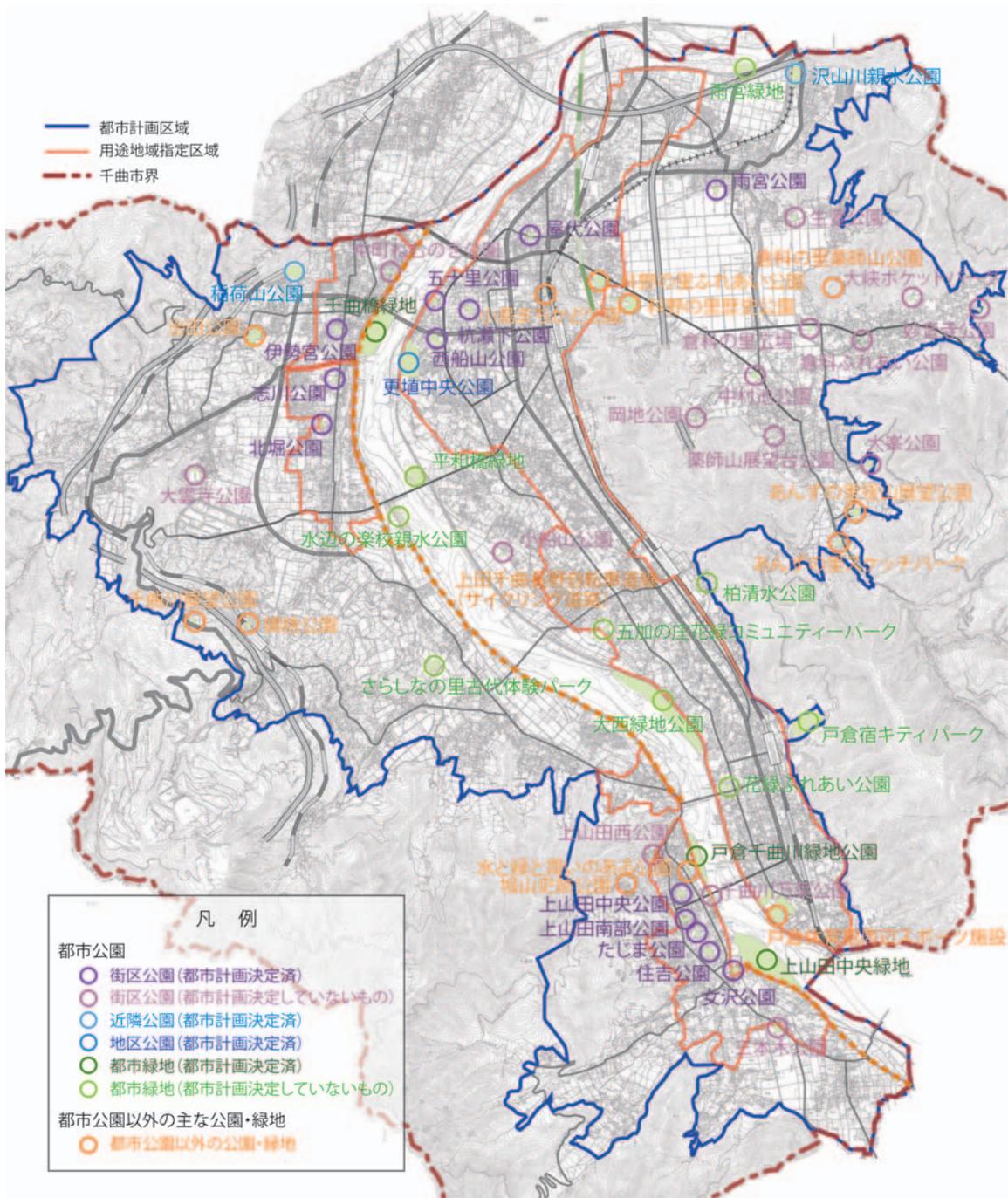


図-24 公園・緑地の現況（都市計画区域内）

本市の都市公園は、森、倉科、屋代、杭瀬下、稲荷山、八幡、上山田などの地域に数多く分布しています。

千曲川の河川敷には、広々とした空間を活かした緑地が設置されています。

また、都市公園以外の市民に親しまれている公園・緑地も数多くあります。

7. 公園誘致距離

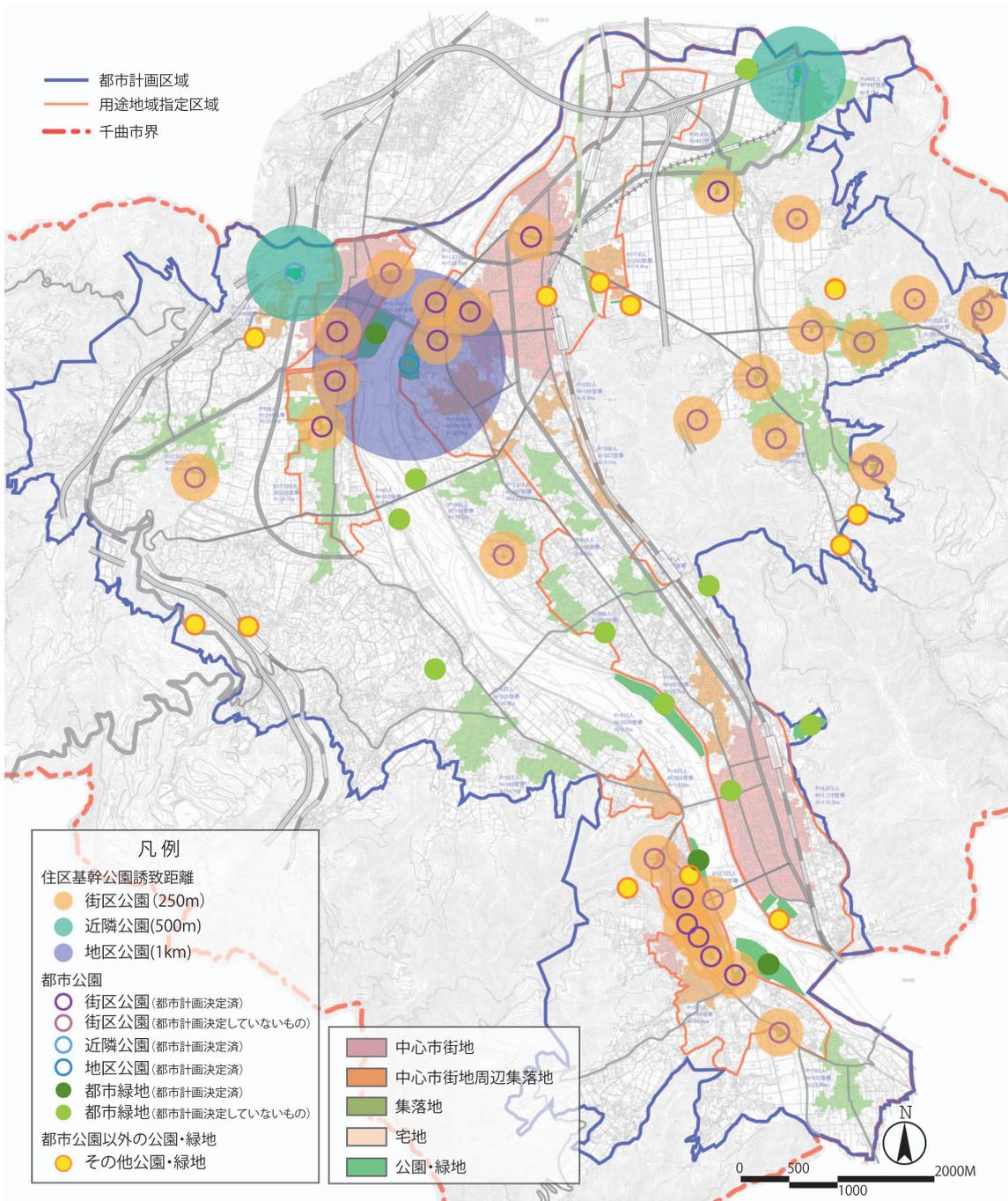


図-25 住区基幹公園誘致距離の現況

上図をみると、旧市町の従来からの市街地・集落地といった、人口集積地区の大部分では公園が立地していることがわかりますが、戸倉の市街地や新興住宅地では、公園の配置密度が薄いところも見受けられます。

ただし、民間や寺社地のオープンスペースなどの普段から人が自由に利用できる場所もあるため、今後の配置にはこれらのオープンスペースの立地状況も踏まえながら、市民にとって使いやすいような設置を、長期的な視点から検討していくことが必要となります。

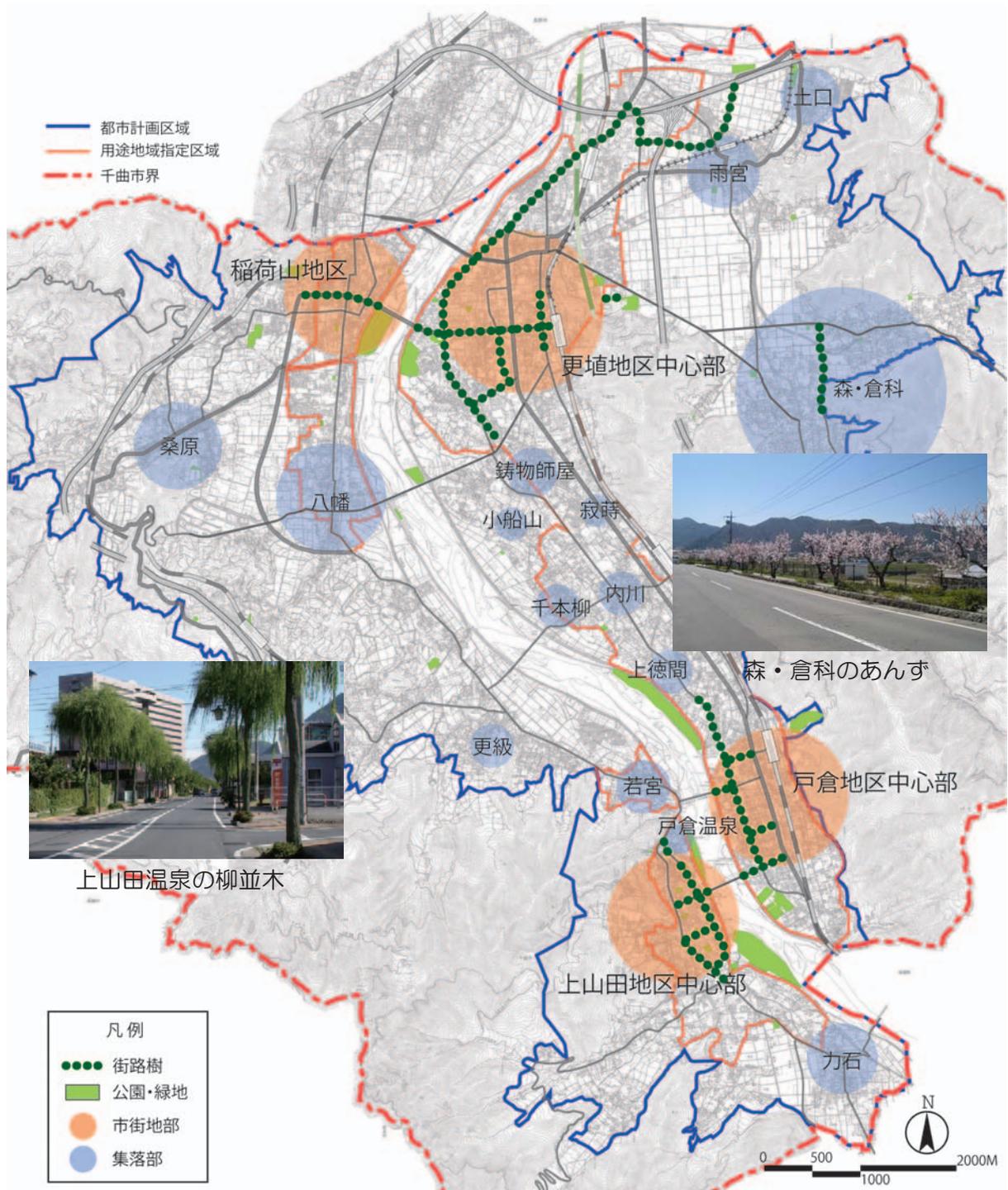


図-27 街路樹の整備状況

本市の街路樹は、旧市町の中心市街地部や稲荷山地区などにエンジュ、シラカシ、アメリカハナミズキ、ヤナギなどが植樹されています。

しかしながら、合併後のそれぞれの地区をつなぐような街路樹ネットワークは、形成されていない現況です。街路樹は、まちのつながりの形成や、景観形成、公害対策、気象緩和、生態系維持、心理的な効果など、まちでの生活にとって大切な役割をもっています。

残したい緑

後世に残したい緑には、文化財として指定されている緑や、市民が中心となって作成した報告書「千曲市の残したい自然」などに示された緑などがあります。



八幡地区の武水別神社の社叢^{しゅうそう}



大雲寺



三島社の保存樹木

<千曲市の市木・市花>

千曲市の気候や風土に適し、歴史的にゆかりがあり、千曲市の象徴となる市木、市花が選定されています。

市木



あんずの木

市花



あんずの花



セツブンソウの花

① 自然に関する文化財

本市では自然に関する文化財が以下のように指定されており、緑のまちづくりに活かすことが必要です。

分類 (指定年月日)	名称	種類・規模等	備考
国名勝 (H11. 5.10)	姨捨 (田毎の月)	聖山高原を背に善光寺平を一望する景勝地にある棚田。16世紀頃から形成されていった棚田は、江戸時代から文学・絵画の題材に取り上げられるなど、風致景観の優秀な記念物である。	姨捨 長楽寺 ほか個人
県天然記念物 (S40. 2.25)	武水別神社叢	植物 大きなケヤキを中心に約 25 種 400 本の木が茂る。平地にあり遠くからもよく目立つ。	八幡 武水別 神社
市名勝 (S62. 1.27)	見性寺 境内一円	公園、庭園 (江戸時代) 背後の山の赤松林を含め、庭園と本堂、庫裏などの建物が良く調和して美しい。	新山 見性寺
市名勝 (S62. 1.27)	曾根堂の不動 滝一円	峡谷、瀑布、溪流、深淵 滝-約 5m 冠着山のふところ深く、北大沢の支流にのぞむ。巨大な奇岩の庇の下に碑がある。	上山田
市名勝 (S62. 1.27)	樽 岩	岩石、洞穴 高さ 15.25m 幅 82.7m 冠着山のふところ深く、樽状の巨岩があり戸隠権現を祭っている。	上山田
市名勝 (S62. 1.27)	山崎氏庭園	公園、庭園 面積 990m ² (貞享 3 年 江戸時代) 約 300 年前に造園された原形を保つ。池庭形で、母屋と長屋門に添い県内産の巨石を配した石組みは素朴ではあるが地張りのしっかりしたもので、江戸期の古風を残している。	新山 個人
市天然記念物 (S62. 1.27)	智識寺寺叢	植物 カヤ・ゲンボナシ・エンジュ・カエデ・スギなどの古木。叢内には国の重要文化財の十一観世音などの文化財数点	上山田 智識 寺
市天然記念物 (S62. 1.27)	三本木神社の 榎	植物 2 本 幹囲 3.98m、3.1m、樹齢推定約 270 年 正徳 2 年 (1712)、諏訪社として創建された当時に植樹されたものと思われる。幾度かの洪水に見まわれたが、生き延びて古木の様相を呈す。	上山田 三本 木神社
市天然記念物 (S62. 1.27)	清水の榎	植物 1 本 幹囲 2.54m この地の古い林相を代表するものの一つ。ニレ科。	新山 個人
市天然記念物 (S62. 1.27)	天坂の柊	植物 2 幹 1 本 主幹囲 1.28m、副幹囲 1.12、樹高 7m 葉縁に刺がなく、よく老木の様相を見せる。二幹に分かれている。モクセイ科。	新山 個人
市天然記念物 (S62. 1.27)	漆原の柏	植物 1 本 幹囲 2.63m、樹高 20m 当地方の古い林相の代表。ブナ科。	新山 寺沢同 姓会
市天然記念物 (S62. 1.27)	漆原の くまの水木	植物 1 本 幹囲 2.23m	新山 個人
市天然記念物 (S62. 1.27)	見性寺の タラヨウ	植物 1 本 幹囲 1.95m 見性寺の本堂前にある。樹勢もよく樹姿も美しい。暖地の山地に自生するモチノキ科の常緑高木。葉を傷つけると傷跡が残るので、葉に字を書くことができ、昔万葉の歌人がたらよウの葉に恋文を書き送ったことから葉書の木とよばれ、ハガキの語源になったという。	新山 見性寺

分類 (指定年月日)	名称	種類・規模等	備考
市天然記念物 (S62. 1.27)	ハコネサンショウウオ	動物 本州四国九州に棲み南部では標高 1,000 メートルを越え北部では低地の山間の清流にだけ生息する。サンショウウオ科。	新山
市天然記念物 (H 6. 3.31)	お稲荷様の櫨	植物 1 本 幹囲 8m、樹高 30m 千曲市内最大級の巨樹で、その雄姿は四田の杏林中で一段の見応えある風格を具えている。菅原道真左遷に際し、宮尾氏の先祖 3 名が配流となり流転の末当地に定着し祠を建て稲荷大明神の御神体を祀りケヤキを植えたという。樹齢推定約 600 年。	森 個人
市天然記念物 (H 6. 3.31)	姨捨長楽寺の桂ノ木	植物 1 本 幹囲 4m、樹高 20m 「姨捨の桂ノ木」として古くから広く知られ、この地方の自然、文化を記念する名木である。長楽寺境内、姨石の傍らにある古いカツラの雌木で、直立した主幹は地上 5メートル辺から上で多数の枝を分岐し、四方へ伸びた枝は均整のとれた樹冠を形成。	姨捨 長楽寺
市天然記念物 (H 6. 3.31)	中原のりんご国光原木	植物 1 本 幹囲 1.7m、樹高 3.0m 樹幅-東西 7.8m、南北 5.0m、樹齢推定約 100 年 長野県内最古の栽培りんご樹であり、他に例をみない。	中原 個人
市天然記念物 (H10. 3.26)	明徳寺の大スギ	植物 1 本 幹囲 4.8m、樹高 26m 枝張り-東西 22.6m、南北 19.6m、樹齢推定約 700 年	羽尾 明徳寺
市天然記念物 (H10. 3.26)	柏王の大カシワ	植物 1 本 根廻り 4.7m、樹高 12m、枝張り 15m ² 県下でもまれにみる大樹、長野市松代町象山のカシワ(県天然記念物)にも匹敵するもの。山の神のご神木としても柏王区民から大切に守られている。樹齢推定約 300 年。	戸倉 個人
市天然記念物 (H10. 3.26)	天狗のマツ	植物 1 本 幹囲 3.6m、樹高 30m、樹齢推定約 400 年 自在山の祭神大山祇命(おおやますみのみこと)を祀るご神木である。市内随一のアカマツの大木。	戸倉
市天然記念物 (H18. 9.28)	セツブンソウ群生地	花樹、花草、紅葉、緑樹など叢生する場所 2 カ所 塩尻市に大規模な群生地が知られ、戸倉の分布地はそれに次ぐ大きな群生地。倉科の方はカラマツ植林地でかなりの面積に広がっている。大規模な群生地は長野県内の北限にあたる。セツブンソウは環境省並びに長野県の絶滅危惧植物Ⅱ類に指定。	戸倉・倉科

資料：千曲都市計画基礎調査 平成22年3月、八十二文化財団 長野県の文化財HP



柏王の大カシワ



ハコネサンショウウオ

出典：千曲市の残したい自然

② 千曲市の重要な樹木（「千曲市の残したい自然」より）

本市の残したい自然に「市街地において、珍しい樹木や巨木(古木)の多くは社寺林に見られ、地域の人々によって大切に守られています。

例えば、長楽寺のカツラは推定樹齢 1,000 年を数え、ケヤキの巨木や古木は推定樹齢 700～800 年とされています。千曲高原の大池水源(弁天清水)一帯に広がるスギ林には巨大なスギが整然と天高く真っ直ぐに伸び、神々しい豊かな自然とスケールの大きさに圧倒される。」と表現されているとおり、貴重な樹木は市民共有の財産となっています。

重要な樹木・巨木（古木）

柏王（かしお）の大カシワ

幹囲450cm。高さ12m。雑木に囲まれているが枝張り良く16m。推定樹齢300年。市指定天然記念物。



柏王の大カシワ

獅子ヶ鼻のビャクシン

大正橋南、八王子山が落ち込むところに巨岩が突き出ている。この岩に1本生えている。幹囲250cm。枝張り9m。盆栽会では別名をシンパクと呼び珍重。



獅子ヶ鼻のビャクシン

更級小学校のムクロジ

校庭の隅に独立木¹⁾としてこんもりと繁っている。幹囲170cm。高さ13m。

三島社のケヤキ2本

2本のケヤキは市内で最大クラスの大きさ。幹囲約700cm。高さ23m。

明徳寺（めいとくじ）の大スギ

独立木なので遠くからも良く見える。幹囲480cm。高さ26m。推定樹齢750年。市指定天然記念物。



見性寺のタラヨウ

見性寺（けんしょうじ）のタラヨウ

葉の裏面を傷つけるとその部分が黒くなり、これを利用して文字が書けるため「手紙の木」と呼ばれる。暖地の木として最北にある。幹囲190cm。高さ14m。市指定天然記念物。

波閉科（はべしな）神社の才兵衛ヒバ

ヒバの古木数本。貴重な種類のヒバ。幹囲140cm。高さ20m。

天狗のマツ

戸倉自在神社境内にある。幹囲380cm。高さ30m。推定樹齢400年。雑木の日陰となり弱ってきたため、周囲の木を切り保護に努めている。枯れ枝も目立つ。市指定天然記念物。



天狗のマツ

長楽寺のカツラ

幹囲450cm。高さ20m。推定樹齢1000年。姥岩の下に生えている。市指定天然記念物。

開眼寺（かいがんじ）のサワラとスギ

サワラは、幹囲310cm。高さ39mで最長。スギとともに推定樹齢350年。

大池水源（弁天清水）のスギ林

水源の清流にはトワダカワゲラ²⁾が生息。ウバミソウが周囲一面に生育している。祠が祭られており、その辺りから見上げるようなスギの巨木が斜面一体に広がっている。

1) 独立木：一本だけ独立している木。

2) トワダカワゲラ：川の源流など、きれいな水にすむ水生昆虫のカワゲラの種類で、十和田湖に注ぐ小溪流で初めて発見された。日本では4種が知られている。



トワダカワゲラ（幼虫）



開眼寺のサワラとスギ



大池水源(弁天清水)のスギ林

出典：千曲市の残したい自然 ※参考資料：平成16年文化課文化財調査委員会樹木調査

③ 千曲市の主要な社寺林(「千曲市の残したい自然」より)

市街地に見られる社寺林の多くは、ケヤキ、スギ、カエデ、サクラ、カヤが多く、何百年もの年輪を重ね、うっそうと繁り社叢・寺叢を形成しています。中でもケヤキの巨木や古木は数多く見られます。

また、大雲寺や観龍寺の寺叢は、周辺の森林や池等と見事に調和し、一つの美しい景観を作り出しています。

武水別神社は市内一の広さを持ち、社叢は県の天然記念物に指定されています。高台から見ると大きな森に見えますが、境内は明るく市民のやすらぎの場となっています。

社寺林は地域の人々に大切に守られながら市街地に点在し、珍しい樹木や巨木(古木)もその中に多く残されています。

代表的な社寺林

—そのほかの社寺林は資料編を参照—



智識寺(上山田地区)

カヤ、イヌエンジュ、スギ、ケヤキ、カエデなどがうっそうと繁り、茅葺き(かやぶき)の本堂と調和し、見事な寺叢を形成している。別名アジサイ寺ともいう。現在は無人寺。市指定天然記念物。



三島社(戸倉地区)

リンゴ畑に囲まれた小さなお宮。二本のケヤキの巨木は市内で最大クラスの大きさ(幹囲7m以上、高さ23m以上)。数本のケヤキ、エンジュ、コガキ、スギなどがうっそうと繁り、昼間でも少し暗い鎮守の森。



佐良志奈(さらしな)神社(戸倉地区)

境内は広大な面積で樹木の数が多く、うっそうとした社叢をなしている。カツラ、ケヤキ、カエデ、スギ、ヒノキ、ヒマラヤスギ、イチイ等の管理も良い。すぐわきにはカタクリの群生地もあり、橋のたもとにあるシンパク(ビャクシン)の古木とともに残したいところ。



武水別神社(更埴地区)

遠方から眺めると神社全体が一つの大きな森に見える。太鼓橋を右に石畳を進むと、ケヤキ、スギ、カエデ等が高く繁るが意外と境内には空間が広がり明るい。社叢が県の天然記念物に指定。



大雲寺と霊浄山(れいじょうざん)(更埴地区)

石垣の上に建つ寺、ハスの池、などらかな稜線の霊浄山のスギ林が一つの景観を作り出している。春のサクラ、夏ハスの、秋の紅葉、冬の雪と松。四季を通じ気高く神秘的。すぐ横に外池があり自然の状態が保たれている。埋め立てなどしないで欲しい。県の郷土環境保全地域³⁾に指定。



観龍寺と大峯山(更埴地区)

境内は傾斜地で見晴らしが良い。今は無人寺だが、サクラが多く植えられ手入れが行き届いている。周囲にはアカマツの自然林や広葉樹林が分布し、夏には静まり返った境内に蝉時雨(せみしぐれ)が降り注ぐ。山麓一体の森のアンズと調和している。千手観音坐像は県宝指定。県の郷土環境保全地域に指定。



栗狭神社(更埴地区)

郷社として地域で崇敬され、土俵がある。古木が多い。二本のケヤキの巨木は落雷のため損傷を受けたが、今なお力強く繁り、社叢の中でひときわ目を引く。

- 1) 社叢・寺叢：神社や寺のうっそうとした森で、古くから守られているため巨樹や巨木(古木)が多い。
- 2) 天然記念物：動物、植物、地質、鉱物、天然保護区域などで、学術上価値の高いものとして国または地方自治体(県・市町村)が指定したもの。
- 3) 県郷土環境保全地域：市街地周辺の森林や草地、湖沼などがある自然豊かな区域で県が定めた地域。

出典：千曲市の残したい自然

平成21年に策定された景観計画※)においても、緑に関係した景観資源が数多く取り上げられています。

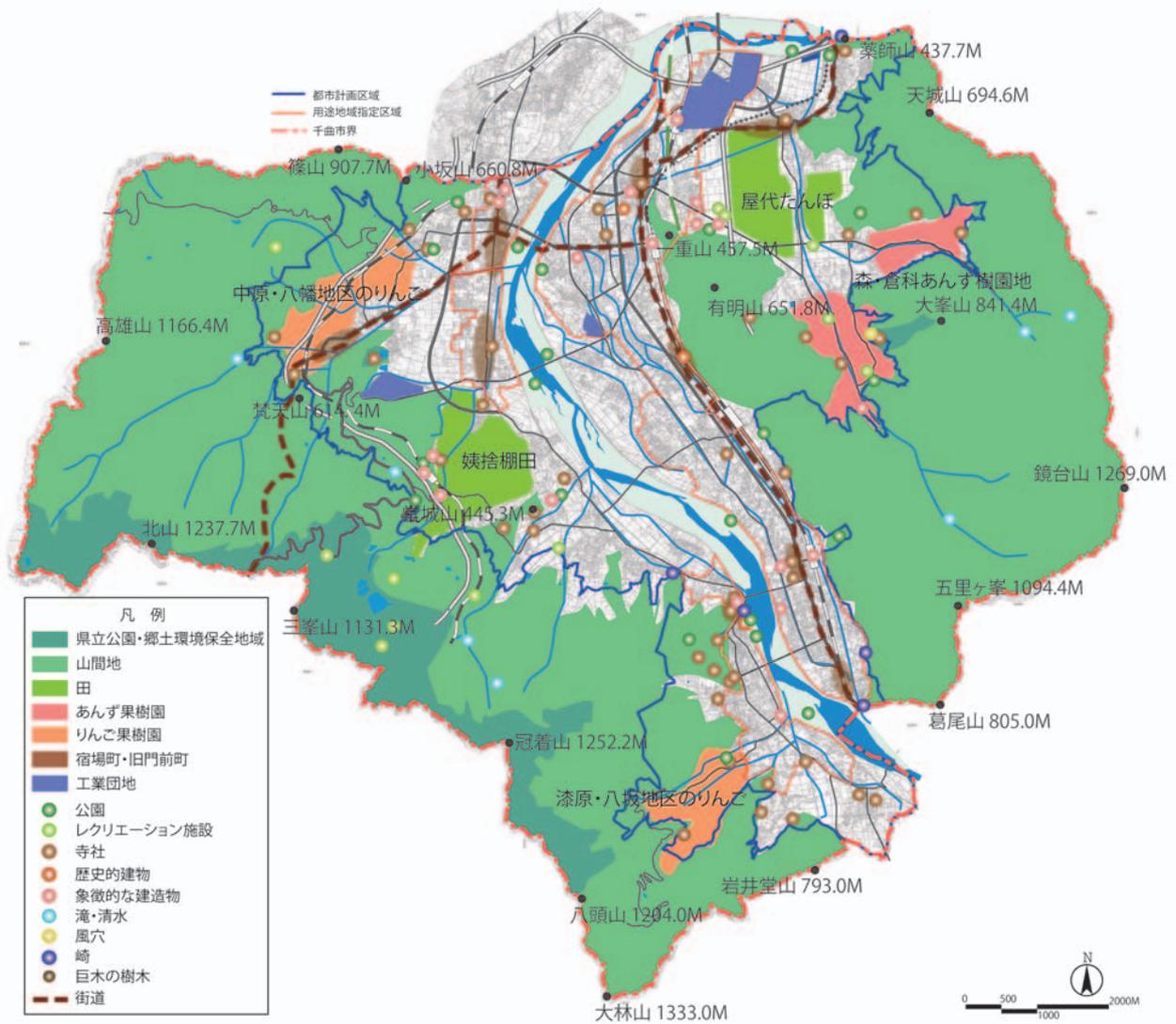


図-28 景観計画における景観資源分布状況



稲荷山宿

生物多様性

生物多様性の保全是、近年世界規模で重要視されています。2010年10月には名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議[※]が開かれ、「地球の将来は、世界の生物多様性の保全是、次の10年間に確実に達成できるかどうかにかかっている」と各国が共有認識を示しています。

本市においては、千曲市環境基本計画が策定され、豊かな生態系を保つ取り組みが市民等により行われていますが、今後さらに取り組みを強化することが望まれています。

1. 千曲市の貴重な生物生息環境

千曲市版レッドデータブック[※]によると本市では気候風土、地形条件のもとに、以下のような生物の生息、生息基盤を有しており、多種多様な動植物が生息・生育しています。

- 冠着山、千曲高原、大林山、五里ヶ峯、鏡台山等山間地
- 千曲川、佐野川等市域内河川、大池等ため池群、三滝、久露滝の水環境
- 市街地近郊の一重山、戸倉宿キティパーク等の里山
- 市内に点在する多くの社寺林の緑
- 姨捨、大田原地区等の農地



2. 千曲市の動植物

- 市内では2,631種(動物1,205種、植物1,426種)の動植物が確認されています。生存が危ぶまれている種は310種となっています。
- このうち、絶滅のおそれのある種は植物176種、動物103種です。
- 市内で絶滅したと考えられる種は植物12種、動物7種、野生絶滅動物3種です。

千曲市版レッドデータブックに掲載された絶滅危惧要因は、植物で25.9%が極めて限られた場所に生育していること、23.2%が森林・草地の維持管理が行われないことによる生育環境の変化によるものです。動物では21.0%が極めて限られた場所に生息していること、28.1%が開発等によること、13.4%が森林整備・伐採によることが主要因として示されています。

3. 絶滅危惧種に対する市民の対策

千曲市版レッドデータブックにおいては、市民にできることとして以下が示されています。

- ① 希少な動植物の採取はしない。
- ② 周辺環境を整備する。
- ③ モニタリング[※]を続ける。

4. 山林の状況

本市の山林構成は、そのほとんどが植林と二次林[※]からなっています。里山の自然は、防災、生き物の生息環境、レクリエーション機能など大切な役割を果たしていますが、原生林と違って人の手入れが必要な自然です。

ここ数十年で手入れが十分に行き届かない山林が多くなったため、山林の荒廃が目立つところも出てきている状況です。地質がもろい特徴もあり、山林の荒廃による土砂災害の危険性の増加も考えられます。

本市の緑の質という視点からも、山林を適切に維持していく仕組みづくりが求められています。

維持が難しいような山林は、人の手が掛からなくても自律的に維持する原生林に近い植生遷移[※]へと導く様な工夫をすることも大切になっています。

5. 外来植物・外来害虫の状況

外来植物として、特に近年アレチウリが、千曲川および千曲川の支流を中心とした河床や河川周辺、道路や線路脇、山林の日当たりの良い部分に急速な勢いで繁茂している状況にあります。姨捨の棚田付近にも繁茂してきています。抜き取り等の適切な処置を、適切な時期に長い年月をかけて行わないと、固有の植物が駆逐されてしまう危機的状態にあります。

アレチウリ以外にもオオブタクサ、セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ等の繁殖力の強い外来植物は山林、河川、道路周辺、農地において問題となっています。

また、アメリカシロヒトリ等の外来害虫等の繁殖が多くみられ、枯れてしまう樹木も少なくありません。

市民の間でも外来植物の認知度を高め、固有種が保全されるような対策が早急に求められています。



姨捨の棚田周辺に繁茂するアレチウリ



千曲川の河川敷に繁茂するアレチウリ・オオブタクサ・ニセアカシア等の外来植物



繁殖力の強いオオブタクサ



繁殖力の強いセイタカアワダチソウ



アメリカシロヒトリの被害を受けた樹木

◆大切にしたい場所（生物が豊かな場所）（千曲市版レッドデータブックより）

■山間地環境

- ①県道聖高原千曲線沿い ②冠着山麓（上山田側西山麓） ③大林山一体 ④五里ヶ峯
防火帯 ⑤葎生林道・沢山川溪谷 ⑥鏡台山（環境指標ヤマネ生息の生物相豊かな地域）
⑦三滝周辺（落葉針葉樹混交林の奥山のような里山）

■水辺環境

- ①千曲川 ②佐野川上流域 ③大池源流 ④水辺の楽校^{がっこう} ⑤三滝、久露滝

■農用地環境

- ①大田原 ②平沢池 ③八幡ちくま種菌センター近隣樹林 ④千曲高原
⑤姨捨棚田 ⑥羽尾の泥の木地区 ⑦向堤池^{むこうつみいけ}周辺 ⑧東小学校北大堰^{おおせぎ}

■市街地近郊環境

- ①一重山 ②戸倉宿キティパーク

■社寺林環境

- ①武水別神社 佐良志奈神社^{さらかしな}周辺八王子山 青麻神社^{あおぞ}（カ石）ほか各地神社

◆千曲市に生育している貴重な植物（千曲市版レッドデータブックより）

■絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

ベニバナヤマシャクヤク、イヌムラサキ、アオテンツキ、シロテンマ、オオミスミソウ、
ヤマシャクヤク、タコノアシ、カラフトイバラ、ヒメヒゴタイ、ウスギタンポポ、
ミズオオバコ、ウラシマソウ、オオヤマカタバミ、カイジンドウ、他計34種

■絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

ミズユキノシタ、ソクズ、アマナ、ヌマガヤツリ、サンショウモ、チチッパンケイ、
ノジトラノオ、イヌノフグリ、コケイラン、フクジュソウ、イヌハギ、他計43種

■絶滅危惧Ⅱ類：市内において絶滅の危険が増大している種

マルミノウルシ、デンジソウ、セツブンソウ、イワカラマツ、ウマノスズクサ、ミクリ、
ノダイオウ、ツメレンゲ、スズサイコ、アシカキ、ギンラン、他計52種



戸倉地区、倉科地区に群生地がある
全国的にも珍しいセツブンソウ
（千曲市の市花）



デンジソウ

出典：千曲市の残したい自然

◆外来生物法において、生態系破壊の危険が大きいとされ特定外来生物[※])に指定されている長野県で見られる主な植物

アレチウリ、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク



特定外来生物に指定されているオオカワヂシャ
在来種のカワヂシャと交配し雑種となり遺伝的攪乱をおこした



特定外来生物に指定されているオオキンケイギク
園芸用や緑化用として流通し河川敷や道路に大群落を形成
出典：長野県ホームページ



特定外来生物に指定されているオオハンゴウソウ
園芸種として流通、在来種への影響が懸念されている
出典：長野県ホームページ

◆長野県内でもよく見られ、一定の被害があり、環境省において特定外来生物に指定の適否が検討されている要注意外来植物

セイタカアワダチソウ、オオブタクサ、オオカナダモ、コカナダモ、ホテイアオイ



身近な場所に広く分布するセイタカアワダチソウ。根から化学物質をだし在来種を駆逐する。
出典：長野県ホームページ



繁殖力が強く長野県でも広くみられるオオブタクサ



コカナダモ

◆その他にも生態系等に対する被害の恐れが指摘されているアメリカセンダングサ等の要注意外来植物は、長野県においても広く分布しています。市内に生息する要注意外来植物の例（下記写真）



アメリカセンダングサ



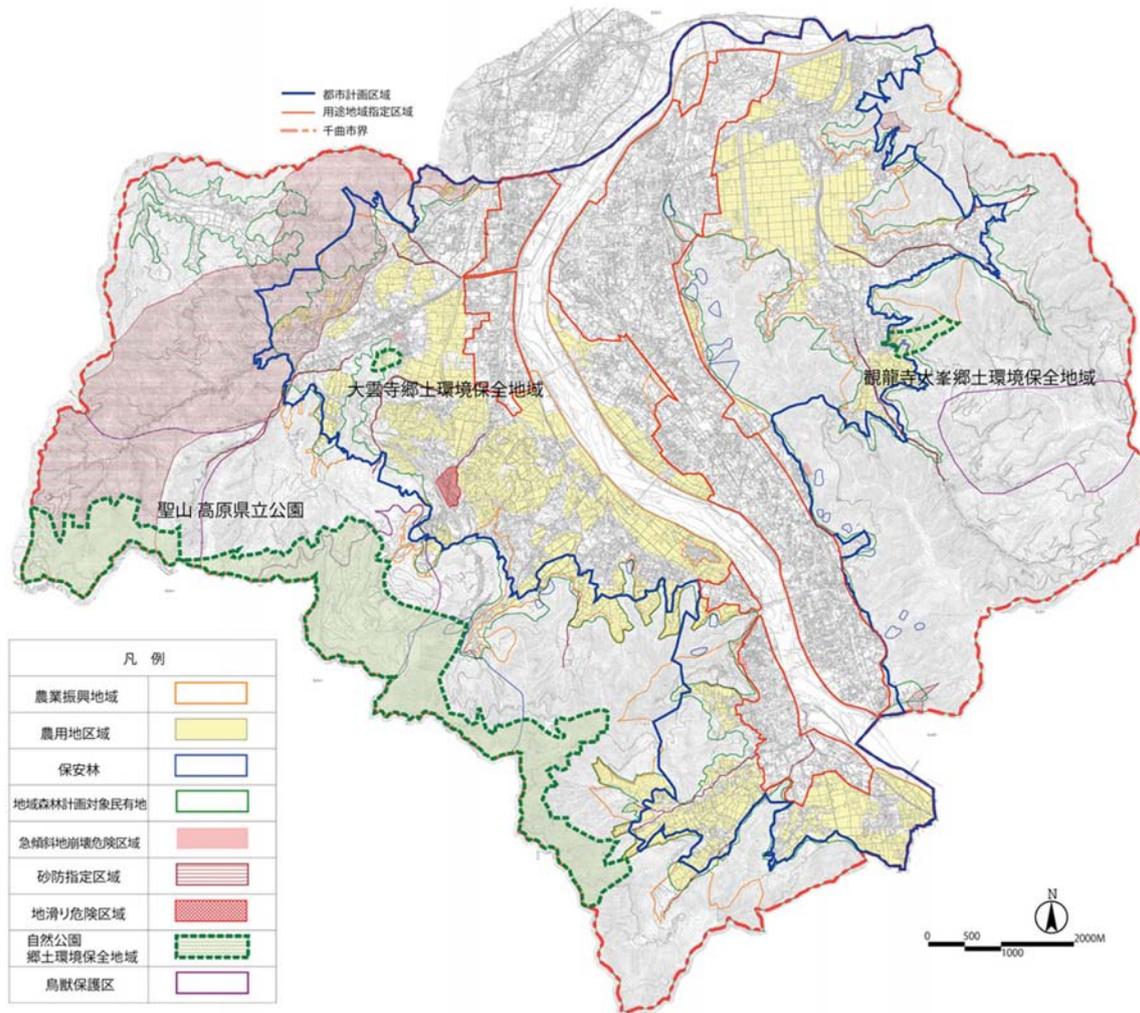
アリカネナシカズラ



ハルザキヤマガラシ

① 長野県立自然公園等

本市では、法令において聖山高原県立公園が冠着山周辺の山間地域に指定されています。
 その他緑地に関して農業振興地域[※]、農用地区域[※]、保安林[※]、地域森林計画[※]対象区域が下図のとおり指定されています。



資料：千曲都市計画基礎調査 平成22年3月

図-29 緑地関連法適用現況図

② 郷土環境保全地域

国立公園や国定公園以外の地域で、自然環境を保全する必要がある、かつ、一定以上の面積を有している場合に指定されている地区です。

本市では大雲寺郷土環境保全地域、観龍寺大峯郷土環境保全地域の2ヶ所が指定されています。

環境の保全を図るため、規制が設けられており、宅地の造成、土地の形質変更、建築物の高さ制限(10m、床面積延200㎡)のほか、鉄塔、煙突、ダム等の高さ制限(鉄塔30m、ダム高さ20m)や送水管、ガス管等の長さ制限等があります。